

記録・報道

番組名	内容	時間(分)
音のない時を刻んで	聞こえる人と聞こえない人とのコミュニケーションの壁は大きく、そのために生活の中でさまざまな問題が生じることが多い。この作品は聴覚障害者が東京都ろうあ者更生寮を利用し、地域で生活していく様子（1988年から1993年）を記録した映画である。	51
ことばへの思い	東京都聴覚障害者生活支援センター（旧東京都ろうあ者更生寮）の自主制作作品。ことばの世界から取り残されてきた一人の入所者が、少しずつ自立へ向かっていく過程や、ことばの学習、地域に開かれた演劇祭など、当時の施設内での取り組みが描かれている。聴覚障害のもつ不自由さや、「共に歩む」ことの大切さが訴えられる。	37
きらっといきる 振動を感じて駆け抜けろ！ ～聴覚障害・西田文彦さん～	奈良県に住む聴覚障害者の西田文彦さんは、世界で活躍するプロレーサーを目指している。しかし周囲からは障害者がレースをすることは危険だと言われていた。夢をあきらめきれなかった西田さんは、ある人との出会いが大きなきっかけとなり、プロレーサーの夢に向かって進み出す。西田さんの夢に向かっての挑戦を紹介する。	29
きらっといきる 波に乗り世界へ ～聴覚障害・竹本裕行さん～	竹本裕行さんは徳島聾学校に通う16歳。夢はプロのサーファーになること。ろう者の父親も、かつてはデフサーファーの日本第1位だった。聾学校の寄宿舎に入っているため練習が十分にできなかったり、卒業後の進路のことなど悩みも多い。世界を目指す竹本さんの試行錯誤の日々を追う。	29
夢の扉 NEXTDOOR EPISODE 132 聴覚障害者の生活圏を広げる機械を発明した男 齋藤勝	聴覚障害者がにとって便利な道具シルウォッチ。シルウォッチは、FAXの着信音や玄関の呼び鈴などの音を、文字と信号に変えて聴覚障害者に知らせてくれる。この機械を開発したのが、齋藤勝さん。齋藤さん自身、聴覚に障害をもつ難聴者。自分が生活で感じた不便を解消するためにつくった機械が、今、さまざまな分野で活用され始めている。	25

番組名	内容	時間(分)
情熱大陸 プロボディーボーダー 甲地由美恵	世界ツアー初参戦でいきなり日本選手最高位の11位となったプロボディーボーダーの甲地由美恵。2歳の時、感音性難聴で聴覚を失った甲地は、18歳で出会ったボディーボードによって人生が変わったという。「海は自分が1人の人間で居られる唯一の場所」と言い切る彼女が、世界戦に挑戦する姿を追う。	25
課外授業 ようこそ先輩 みんな生きていればいい 東京大学准教授 福島智	<p>福島さん（45歳）は、目が見えず耳も聞こえない全盲ろう者で、東京大学でバリアフリーを研究している。今回は、小学校3年生まで通った母校・神戸市立舞子小学校で6年生に授業をする。</p> <p>子供たちは実際に、見えず聞こえないという状態を疑似体験し、その恐ろしさ、寂しさ、孤独を体感する。そんな子供たちに福島さんは、「それでも生きていればつながれる」と語りかける。</p>	29
道徳ドキュメント 人生はチャレンジだ 静寂のマウンド	鍛え抜かれた者たちが技を競い合うプロ野球の世界で、ハンディを乗り越えて活躍する石井裕也投手。石井投手は生まれながらの難聴で、右耳はわずかに聞こえるが、左耳はほとんど聞こえない。しかし石井投手は、難聴というハンディをも投球に活かして戦っている。	15
ろうを生きる難聴を生きる 夢は一流シェフ	東京都立葛飾ろう学校には調理師免許を取れるコースがあり、全国から料理人を目指す若者が集まる。藤林恭兵さんもその1人。学校でプロの料理人から直接調理の指導を受けた藤林さんは、一流ホテルの厨房に就職が決まった。ホテルでは、宴会の食事サービスや英会話の研修も行われる。聞こえる人の世界にひとり飛び込んだ藤林さんの姿を追う。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえなくても快適に暮らせる家作り	東京都清瀬市に暮らす島澤さん一家。妻の美保さんは聴覚障害者だ。島澤さん一家は、聴覚障害者が快適に暮らせる家作りに挑戦した。ポイントは3つ。壁を取り払い見通しをよくすること。意識的に向き合える空間をつくること。そして必要に応じて視覚情報機器を使うこと。その結果、家族とすぐコミュニケーションがとれる聴覚障害者にとって暮らしやすい家ができあがった。	15
きらっといきる もう1度 社会へ～聴覚障害・草野陽幸さん悦子さん夫妻～	大阪府茨木市の草野さん夫妻は、ともに聴覚障害者。聞こえる人に囲まれた仕事場で、うまくいかなかった経験を持つ。そんな2人が今新しい一歩を踏み出そうとしている。きっかけは幼い娘たち。聞こえない両親のために、周囲の話を手話で伝えようと頑張る娘の姿を見て、もう一度社会に飛び込んでみようと思ったのだ。	29
きらっといきる “すれ違い”からはじまったけど・・・	大学3年生の大畑明子さんは、生まれつき耳が聞こえない。大学でスポーツ行動学を勉強している明子さんは、「卒業後は、子どもたちにスポーツを教えたい」と考えている。 スポーツクラブでの実習に臨んだ大畑さんの姿を追う。	29
ろうを生きる難聴を生きる 日本のろう者にとってのギャロデット大学～留学経験者は語る～	世界で唯一の聴覚障害者のための大学ギャロデット大学。日本からも数多くの聴覚障害者が留学している。スタジオに2名の留学経験者を迎え、ギャロデットで学んだこと、世界のろう者との交流経験などを伺い、留学を通じて何を学んだのかを見つめ直す。	15
ろうを生きる難聴を生きる “ことば”を持たないお年寄りとともに	高齢のろう者の中には学校に通ったことのない人が数多くいる。このような未就学のろう高齢者たちは、介護のための施設に入っても周囲とコミュニケーションがとれず、孤立したり認知症と誤解されてしまうことが多い。ある未就学ろう高齢者への周囲の働きかけを見ていきながら、この問題について考える。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ・被爆を語る～聞こえない人と情報について考える～ (2008年7月27日放送)	長崎の山崎榮子さんは原爆被爆者。平和祈念式典では、迫真の手話で被爆の恐ろしさ、平和の誓いを訴えた。疎開先で原爆投下の8月9日を迎えた山崎さんは、その日の夕方爆心地に入り被爆した。被爆と同時に長らく山崎さんを苦しめたのは、ろう者であるが故に情報から閉ざされ、真実を知るのが遅くなったことだ。	15
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ・被爆を語る～聞こえない人と情報について考える～ (2008年8月10日放送)	山崎榮子さんを迎える2回目。長崎で被爆した山崎さんは、その後1年間も原爆のことを詳しく知らず、普通の爆弾だと思っていたという。聞こえる両親のもとに生まれた山崎さんに、事実を手話で話してくれる人がいなかったためだ。山崎さんは情報から疎外されていたことに今も悔しさを感じているという。	15
ろうを生きる難聴を生きる 今要約筆記を考える ～字幕付与技術シンポジウム～	聴覚障害者にとって大切な情報保障手段の1つ要約筆記。要約筆記で聴覚障害者に正確にわかりやすく伝えるには何が必要なのか。要約筆記について考えるシンポジウムの様子や最新の音声自動認識システムを紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 挑戦! パントマイム ～鮫島加奈江さん～	北九州で開催された「パントマイムフェスティバル」に挑戦する多くの市民の中に、鮫島加奈江さんがいた。彼女は聴覚障害者だ。聞こえる聞こえないという壁を超えた関係を周囲と築きながらステージに挑戦する彼女の姿を追う。	15
ろうを生きる難聴を生きる サーキットに夢を追って ～ライダー西尾政紀さんの挑戦～	ろう者の西尾政紀さんは、バイク好きの父の影響で、子どものころからバイクが好きだった。21歳で免許を取得し、25歳で念願のサーキットデビューをした。西尾さんの目標は、同じろうのライダーとチームを組み、4時間耐久レースに出場し上位入賞すること。目標に向かって走る西尾さんを追う。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 4コマ漫画 描き続けて20年	中橋道紀さんは全日本ろうあ連盟の発行する日本聴力障害新聞の4コマ漫画を20年にわたって描き続けている。 漫画は聞こえない人にとって関心の高いテーマを素材にコミカルに描かれている。 中橋さんの4コマ漫画の作品を紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 元全米ろう連盟代表に聞く～アラン・ホーウィツさん～	元全米ろう連盟代表、アラン・ホーウィツさんが、現在のアメリカの聴覚障害者が抱える課題について語る。一番大きな課題はろう教育で、ろう児が適正な教育を受けられるよう連盟が最優先で取り組んでいるという。	15
ろうを生きる難聴を生きる ノートテイクは今～四国学院大学の取り組み～	大学の講義を受講する聴覚障害者に欠かせない情報保障の1つ、ノートテイク。しかし大学により、その取り組みは様々だ。 香川県にある四国学院大学での取り組みを通して、大学でのノートテイクの実情と課題を探る。	15
中居正広の金曜日のスマたちへ 金スマ波瀾万丈 筆談ホステス 斉藤里恵	音のない世界に生きる、ホステスの斉藤里恵さん。言葉を使えない彼女の接客術は筆談。その筆談で里恵さんは銀座のホステスナンバーワンとなった。 里恵さんをスタジオに招き、里恵さんの波瀾万丈な人生を紹介する。	47
生きる×2 第256回 喜び二倍、悲しみ半分	青森県三戸郡で2年前から共同生活している工藤陽一さん80歳と川原キワさん81歳。キワさんは耳が聞こえないために、2人の会話は筆談で行われる。夫婦でも恋人でもない2人が共同生活する理由と、実際の暮らしぶりを紹介する。	25
新春ヒューマンドラマスペシャル 筆談ホステス	銀座でナンバーワンホステスの斉藤里恵さん。彼女は耳が聞こえない。しかしその障害を乗り越えるために始めた筆談が客の心をつかみ癒している。 彼女がナンバーワンホステスになるまでの道のりをドラマで再現する。	93

番組名	内容	時間(分)
風の歌が聴きたい 音のない世界に生きる 聴覚障害夫婦の16年	これは聞こえない両親と聞こえる一人息子の16年間に及ぶ物語。親子でありながら息子とは住んでいる世界が違うとなかばあきらめていた両親が、風の歌を聴かせたくて息子を宮古島へ連れて行く。宮古島では両親がかつて参加したトライアスロンが開催されていた。一生懸命頑張った人にだけ聴こえる風の歌。両親の思いを息子は理解するのか。(番組の一部に放送時から音声を消している場面があります)	101
きらっと生きる わしらの太鼓はからだで感じる ～聴覚障害・石川康文さん～	理容師の石川康文さんは、生まれつき聴覚に障害があり音はほとんど聞こえない。石川さんには理容師とは違うもう1つの姿がある。それは和太鼓のメンバーの姿だ。 石川さんと仲間たちの太鼓にかける情熱を紹介する。	29
爆笑問題のニッポンの教養 File-074 私はここに いる	全盲ろうという障害を持ちながら、日本で初めて大学教授になった福島智氏。専門は障害学で、障害学とは、そもそも障害とは何か?を考える新しい学問だ。 爆笑問題の2人と福島先生が、生きる意味や障害について語り合う。	29
ろうを生きる難聴を生きる 中途失聴者にとっての手話～今 求められる学習環境～	中途失聴の人が手話を覚えようとする、まず学習の場のないことで苦労する。自治体などで行っている手話講習会は、ろう者とのコミュニケーションを前提に、聞こえる人を対象にしていることが多いからだ。 数少ない中途失聴者を対象とした講習会の模様を通して、その必要性を考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 無くせ情報バリア	中園秀喜氏の著書「聞こえのバリア解消への提言」を通して、聴覚障害者のバリアについて考える。 特に病院や公共機関、交通機関など、情報保障の必要性の高い場においても十分な保障の行われていない現状について、その解決方法も含め、中園氏本人からお話を頂く。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～	<p>聴覚に障害を持つ大窪康之さんは、7大陸の最高峰すべての登頂を目指し、平成21年4月の時点で、キリマンジャロとビンソンマシフの登頂に成功している。</p> <p>大窪さんをスタジオにお招きして、登頂時の映像も交えながら今後の夢を語っていただく。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ここが知りたい！聴覚障害者と裁判員制度	<p>平成21年5月から始まった裁判員制度。裁判員は20歳以上の有権者からくじ引きで選ばれる。</p> <p>実際に聴覚障害者が専任された場合、どのように参加することになるのか、弁護士の田門浩氏に説明していただく。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ろう者が作るアクション映画	<p>ギャローデッド大学で映画製作を専攻したエミリオさんは、日本など4か国のろう者が参加したアクション映画を製作している。手話がパワーを持つ言語であることを世界中の人に知らせたいというエミリオさんの映画製作現場を紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 手話が結んだ国際結婚	<p>栃木県に住む渡邊さん夫妻は、どちらもろう者。奥さんは台湾で生まれ育ったが、2人はごく自然に手話でコミュニケーションしている。日本の手話と台湾の手話はとても似ていることが2人の距離を縮めたという。日本の手話と台湾の手話で生活する2人の日常を紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる どう広めるか“ろうあヘルパー”	<p>大阪聴力障害者協会が始めた、ろうあヘルパー派遣事業は、まだ全国には広まりを見せていないのが実情だ。この協会の先駆的な取り組みを紹介し、ろうあヘルパーの普及について考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ 人工内耳 ～大人のケース～	<p>高度の聴力障害の人の聞こえを補う人工内耳。15年前に保険が適用され、今までに6000人が手術を受けた。現在も毎年500人前後が手術を受けているという。人工内耳について医療現場の現状を大人のケースと子どものケースでシリーズで紹介する。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳 ② ～子どものケース～	聞こえを得る治療手段として注目を集める人工内耳。術後のケアは大人と子どもでは大きく違いがあるという。人工内耳の手術を受けた子どもに行う言語を獲得するためのトレーニングなどについて紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 人形劇で 広がる世界 ～デフパペットシアター ひとみ 30年のあゆみ～	ろう者と聴者が共に活動する劇団、デフパペットシアターひとみ。人形劇を通じて、ろう者たちの活躍の場を広げ続けたひとみの活動の軌跡を追う。	15
ろうを生きる難聴を生きる たたけ！ 体に響く伝統の音 小倉祇園太鼓 聾 鼓(ろうこ)会	北九州・小倉の夏を彩る小倉祇園太鼓。100以上の山車が繰り出し太鼓を打ち鳴らす。聾鼓会はろう者が中心となって結成された。伝統の小倉祇園太鼓を守り続ける聾鼓会を取材する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 筑前琵琶 に魅せられて ～毛利英二さん～	福岡県の伝統楽器・越前琵琶は、千年の伝統を持つ琵琶に三味線の要素を取り入れて、明治時代に博多で生まれた。その越前琵琶に魅せられて、聞こえないながらもその制作に打ち込むのが、ろう者の毛利英二さん。制作にまつわる苦労話や越前琵琶に魅せられたきっかけを伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる ろう文化 を見つめて	平成21年7月に出版された書籍「『ろう文化』の内側から」。この、アメリカのろう文化研究者の著作を翻訳したのは、ろう者の森壮也さん・亜美さん夫妻。森壮也さんをスタジオに迎えて、ろう文化とは何か、どう向き合っていけばよいのかを伺う。	15

番組名	内容	時間(分)
石橋勝のボランティア21 手話狂言で伝えるメッセージ ～西川慧子さんの挑戦～	<p>日本が誇る古典芸能のひとつ「狂言」。主として科（しぐさ）と白（せりふ）によって表現されるこの芸能に挑戦を続けているのが西川慧子さんです。</p> <p>実は西川さんは聴覚に障害があります。彼女たちが演じているのは、手話で台詞を語る手話狂言なのです。「聞こえないことは個性」そう語る西川さん。</p> <p>35年も前、地元で初となるボランティアサークルを立ち上げ、手話の普及に尽力。今も彼女を支える人々とともに、障害がある人たちのために幅広い活動を続けています。（テレビ大阪HPより）</p>	25
ヒューマンドキュメンタリー “私の家族”	<p>小学生と中学生の3人の子どもを育てるある一家。家族の間に血のつながりはない。子どもに恵まれなかった夫婦は15年前、NPOを通じて生後数か月の赤ちゃんを特別養子縁組を行い、さらに2人を迎え育ててきた。子どもたちには産みの親が別にいることを隠さず伝えてきたが、最近12歳の長女が「産みの母に会いたい」と言い始めた。親子とは？家族のきずなどは何なのか？子どもが成長の節目を迎えた家族の姿を通して見つめる。</p>	43
福祉ネットワーク うちの子どもは世界一 ぼくと音楽のたのしい関係	<p>小柳拓人さん（16歳）は自閉症で落ち着きがなく集団行動や、家族とのコミュニケーションがうまくいかなかった。5歳で音楽教室に通わせると通常、子どもが苦手とする「同じことを反復練習する」などといったことがピタリとはまりみるみる上達。音楽を通して場面に応じた行動をすることを次第に身につけていく。拓人さんの日常を紹介しながら、同世代の若者たちや自閉症や発達障害について正しく理解し、一人一人の個性を大切に生きるということを考える。</p>	29

番組名	内容	時間(分)
福祉ネットワーク シリーズ地域からの提言(1) 地域みんなで子どもを育てる	<p>新潟県上越市では10年以上前から市営の保育園「ファミリーヘルプ保育園」を開設。「土日だけ預かって欲しい」、「急な仕事が入った時だけ預かって欲しい」といった、従来の行政が対応しきれなかった市民のさまざまなニーズに答えている。しかも24時間の受け入れが可能なので、緊急時など母子がいつでも駆けこめるセーフティーネットとしても機能してきた。また、住民との連携にも注力していて、子育てする母親たちが作るNPO「マミーズ・ネット」と情報交換を行い、ベビーベッドが充実した施設を作ったり、父親や企業に子育てを理解してもらうための企業研修を支援したりしている。</p> <p>どうしてこのようなユニークで効果的な対策が実現できるのか、財政学者の沼尾波子さんが検証する。(NHKHPより)</p>	29
ハートをつなごう 「若者のこころの病」(1)	<p>統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。</p> <p>前回2009年12月8日放送の『ハートをつなごう NHK障害福祉賞(2)』(DA2010-005)に出演し、放送後大反響だった岡田彩さんが再出演されます。</p> <p>第1回は彩さんの軌跡を振り返りながら、若者がこころの病を発症する背景に何があるのか?そしてどうサポートしていけばいいのか?当事者の悩みや思いをじっくりと語り合います。(NHKHP参照)</p>	29

番組名	内容	時間(分)
ハートをつなごう 「若者のこころの病」 (2)	<p>統合失調症、うつ病など、心の病の多くは若いころにその芽があると言われ、早期に支援することの有効性は、精神医療界の世界的なトレンドになっています。そこで、「若者のこころの病」を2回にわたって見つめます。</p> <p>第2回では、第1回に続き、岡田彩さんと中心に、孤立しがちな若者たちが“つながる”ことの大切さとその意味について語り合います。彩さんが参加する“ありのままクラブ”には同様の障害を持つ若者たちが集います。“ありのままクラブ”に通う二人の“うつ病”男性がスタジオで本音トークを繰り広げます。(NHKHP参照)</p>	29
ETV特集 思い出の街が甦(よみがえ)る ～写真家・井上孝治の世界～	<p>昭和30年頃の街と人々の暮らしを撮った井上孝治さん(大正8年～平成5年)。生涯、カメラ店を経営する傍ら写真を撮り続けたアマチュアカメラマンで、18年前に74歳で亡くなるまでに3万枚の写真を残しました。</p> <p>井上さんは、幼いときの事故が原因で耳が不自由でした。話すことはできませんでしたが、人なつっこい性格で、特に子どもたちと仲良くなり写真を撮っていたといいます。音のない世界で、時代と風景を見つめ続けていました。その写真には、めまぐるしく移り変わる時の中で、わたしたちが置き忘れてきたものが写し出されています。</p> <p>写真作品と、残された日記、そして家族・関係者の証言などから、井上孝治さんの生涯をたどります。</p>	59
きらっといきる マンガで伝えたいろう者の世界 ～聴覚障害・松谷琢也さん～	<p>奈良県に住む松谷琢也さんは生まれたときから耳が聞こえない。松谷さんは日々の生活の中で感じているろう者と聞こえる人との文化の違いをマンガでユーモアたっぷりに描く。松谷さんの伝えたいろう者の世界とは・・・。</p>	29
きらっといきる いつも手と手をつないで ～全盲ろう 山口隆雄さん・幸子さん夫婦～	<p>目が見えず耳も聞こえない全盲ろうの山口孝雄さんと妻の幸子さん。会話は互いに手と手を取り合って行う触手話という方法で行っている。手と手で絆を深め、毎日をいきいきと過ごす夫婦の姿を紹介する。</p>	29

番組名	内容	時間(分)
福祉ネットワーク 105歳 最期の日々をわが家で ～香川 在宅ケアへの挑戦～	香川県に暮らす105歳の小佐古シケノさんは、自宅で家族に見守られながら亡くなった。シケノさんの唯一の同居人の息子・浩さんも病気を患っていたが、町の診療所の医師やヘルパーに支えられ母親の最期をみとることができた。シケノさんが亡くなるまでの生活を追う。	29
福祉ネットワーク この人と福祉を語ろう わたしと難聴と京都の関係 エッセイスト 麻生圭子さん	1980年代、作詞家として数々のヒット曲を生み出した麻生圭子さん。しかし難聴になり、作詞家を引退。その後エッセイストとして活躍し、今は京都に夫と暮らしている。今も難聴は進行しているが、その分見るものが以前より美しく感じられるという。難聴と向き合いながら日々を暮らす麻生さんに、その生き方を伺う。	29
福祉ネットワーク シリーズ 支援が必要な子どもたちへの教育 第1回 “インクルーシブ”な教育	2006年に国連で採択された障害者権利条約。この条約の批准に向けて、国内でさまざまな取り組みが始まっている。インクルーシブな教育とは、障害者が自分が住む地域で、健常者と共に教育を受けること。長野県中野市の取り組みを紹介しながら、障害を持つ子供たちへの教育について考える。	29
福祉ネットワーク “盲ろう者” 生きる意欲につながる支援	2009年、東京に全国初の盲ろう者支援センターが開設した。全国に2万人といわれる盲ろう者に対して触手話などのコミュニケーション訓練をはじめ、調理などの生活訓練も行い、盲ろう者の自立や社会参加を広げることが期待されている。孤立して暮らす盲ろう者の実態を調査し、適切な支援につなげていく試みを進めるセンターの活動を紹介する。	29
福祉ネットワーク 公開すこやか長寿太極拳に学ぶ・柔らかな足腰の動き	栃木県那珂川町から、高齢者と学ぶ健康体操教室を送る。テーマは太極拳。深い呼吸とゆったりした動きの太極拳は、高齢者にもできる健康づくりだ。「調心」「調息」「調身」をキーワードに、すぐできる簡単なプログラムを紹介する。講師は日本健康太極拳協会の皆さん。	29

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる サーキットに夢を託して ～4時間耐久レースに挑む聞こえないライダーたち～	<p>全国のライダーたちにとってあこがれの舞台とも言える鈴鹿サーキットで、聴覚障害者で組織されたチームが注目を集めている。</p> <p>メンバーは西尾政紀さんを中心とする近畿一円に住む約10人。彼らをひきつけるのは「風を切る快感」。当初は聴覚障害者の出場は危険と参加を渋る主催者と粘り強く交渉し、ようやく挑戦が実現した。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる デフアートに希望を託して	<p>乗富秀人さんは手話をモチーフに手を描き続ける画家。ろう学校専攻科でデザインを学んだ後フランスの美術専門学校で油絵を学んだ。帰国後は風景画家として絵を描き続け受賞歴も多い。そんな乗富さんが5年ほど前に風景画をぴたりと止め、みずから「デフアート」と位置づけて「手」を描き続けるようになる。作品を通して、そこに込められたメッセージを紹介していく。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 第2言語・日本手話 ～関西学院大学の“挑戦”～	<p>関西学院大学人間福祉学部では去年から「日本手話」を第2外国語科目とした。全国初のこの試みがほかの大学にも波及すれば、言語としての手話の認知、ひいては社会での手話のさらなる普及にむけて追い風になると期待されている。大学の試みを紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 新宿居酒屋店主 ～ど根性10年の歩み～	<p>東京新宿で10年前にろうの男性が開いた居酒屋が今も満員盛況の毎日が続く。</p> <p>店主は吉岡富佐男さん。10年続いた最大の理由は、聞こえない人だけでなく聞こえる人も大勢店に通い続けたことである。接客術、料理へのこだわり、店の雰囲気作り…「10年」の秘密に迫る。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳・心のケア ～「遊びクラブ」が目指すもの～	<p>人工内耳は音の情報を電気信号に変え直接脳の聴神経を司る部分に送ることで聞こえを得る治療法である。しかし、期待された効果がなかなか出ないケースもあるなど治療結果には個人差が大きいことも浮き彫りになってきた。</p> <p>こうした中で重要性が指摘されているのがメンタル面のサポート、それも同じ悩みを知る人同士の自助活動が大きな力になる。人工内耳治療のメンタルサポートの重要性について考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 情報保障の可能性を広げよう ～字幕付与技術シンポジウム2009から～	<p>京都大学学術情報メディアセンターが主催して開催された「聴覚障害者のための字幕付与技術」シンポジウム2009。</p> <p>注目を集めた技術のひとつが、携帯ゲーム機や携帯電話に字幕を提供する技術。また、会場では、学術情報メディアセンターの河原達也教授たちが開発している自動音声認識システム「Julius」を使ってリアルタイムで字幕を制作する実演も行われた。</p> <p>このふたつの技術を中心に、字幕付与技術の最新情報を伝える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 今医療手話を考える	<p>全日本ろうあ連盟は今月「医療の手話シリーズ・第3巻 保健指導編」を出版した。連盟ではこれまで医療関係者も交えた制作委員会を作り病気や治療法に関係した手話表現の制作に当たってきたが、これでそうした手話がほぼ完成したことになる。</p> <p>医療関係者、聞こえない人は「医療手話」とどう向き合ったらよいのか考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 今震災体験を語る ～永江眞樹さん～	<p>神戸市に住む永江眞樹さんは15年前の阪神大震災を経験、その体験記をこのほど出版した。</p> <p>「阪神大震災・聴覚障害を持つ主婦の体験」は永江さんが一家四人で体験した震災と避難生活をつづったものである。被災時に聴覚障害者がどんな体験に直面したか、改めて検証する。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 意外に多い!? ろう者と聴者 日本語のズレ	<p>「手話と音声言語」というコミュニケーション手段の違いから意志疎通に困難を生じる健聴者と聴覚障害者だが、微妙なニュアンスの違いからも、さまざまなトラブル、誤解が発生する。</p> <p>そうした用例を集めた本、「ろう者のトリセツ聴者のトリセツ～ろう者と聴者の言葉のズレ～」が出版された。数々の日本語の解釈のズレを実例に、互いをよく理解するためにどうしたら良いのか考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ぼくと“おしゃべり”をしようよ イラストレーター・門秀彦さん	<p>門秀彦さんはイラストレーターとして活躍するコーダ（聴覚障害の両親を持つ健聴の子ども）。手話を表す手をモチーフにした作品を描き続けてきた。</p> <p>門さんが今力を入れるのが絵の持つ「発信力」に聞こえない子どもたちにも気づいてもらい、描く楽しさを知ってもらうこと。描くことで周囲とかかわる自信をはぐくんでもらい成長してほしいと願う。</p> <p>親の障害をみずからの創作エネルギーに変え、作品作りに取り組む、その姿を追う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 夢は七大陸最高峰制覇 ～大窪康之さん～	<p>大窪康之さんは七大陸の最高峰制覇に挑戦中のろう者。大窪さんはこれまでアフリカ最高峰キリマンジャロ（5895メートル）、オーストラリア最高峰コジアスコ（2232メートル）、南極最高峰ビンソンマシフ（4897メートル）の登頂に成功しており、今回南米最高峰のアコンカグア（6960メートル）の登頂に成功した。</p> <p>アコンカグアで直面した困難、そしてチョモランマへの思いを聞く。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 「手話で笑いを届けたい」～2人で挑んだ創作手話落語～①	<p>手話落語研究会「笑草会」（埼玉県草加市）は結成20年を迎え2月28日に記念公演を行った。代表の飯田勝巳さんはこれまでの集大成ともなる本格的な創作手話落語に挑む。強力な助っ人として台本（ネタ）の作成に取り組むのは、かつて多くのお笑い番組の脚本作りを手がけた中途失聴者の宮田和実さん。</p> <p>聞こえない人による、聞こえない人のための本格的創作落語にかける2人の姿を追う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 「手話で笑いを届けたい」～2人で挑んだ創作手話落語～②	<p>手話落語研究会「笑草会」（埼玉県草加市）が開催した、20周年記念公演のダイジェスト。宮田和実さんの作った創作落語「聾訪（ろうほう）」を、「笑草会」代表の飯田勝巳さんが演じる。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる人とのかけ橋に	<p>2010年3月、新潟市で「しゅわる映画祭」が開かれた。聞こえない人も聞こえる人もともに同じ映画を楽しんでもらい、手話に関心を持ち手話を使う（しゅわる）人を増やすことを目的にした映画祭だ。</p> <p>映画祭を企画したのは、手話の普及をめざして活動する団体・手話レクチャー「ハンズ」。代表の小池卓さんが映画祭の運営委員長を務める。「聞こえない人と聞こえる人のかけ橋になりたい」と願う小池さんに、その思いを伺う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 必要な人に必要なサービスを ～障がい者制度改革推進会議～	<p>総理大臣を本部長として設置された「障がい者制度改革推進本部」の下部組織、「障がい者制度改革推進会議」が、2010年1月からスタートした。障害のある当事者や有識者が参加して、障害者基本法の改正や、あらたな総合福祉法（仮称）の制定などに向けて議論を進めている。会議の構成員の1人、全難聴常務理事の新谷友良さんに、障がい者制度改革推進会議における議論について解説していただく。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう者”生きる意欲につながる支援	<p>2009年5月、盲ろう者の自立や社会参加の支援を目的に、東京都盲ろう者支援センターが開設された。東京都の補助を受けてNPO法人東京盲ろう者友の会が運営するもので、全国初めての取り組みだ。センターでは、料理、スピーチ、ウォーキングなどを通して、家に閉じこもりがちな人たちの社会参加を促進する事業を実施している。開設1年の東京都盲ろう者支援センターの取り組みを通して、盲ろう者を支援するサービスのありかたを考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 電話リレーサービス普及のために	<p>電話リレーサービスは、聞こえない人と聞こえる人がリアルタイムで会話することを可能にするサービス。聞こえない人は、パソコン上で文字を打ったり、テレビ電話で手話で話す。それを見たオペレーターが、聞こえる人に電話をして内容を音声で伝える。逆に聞こえる人の音声は、オペレーターが文字や手話で伝える。</p> <p>電話リレーサービスの便利さを紹介しながら、普及させるための道筋を考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 発達障害をあわせ持つ子への支援	<p>ろう学校に通う子どもの「発達障害」が注目されはじめた。補聴器が進歩したり手話が積極的に活用されても、「ことばの学習に困難がある」「集中が続かない」「人の気持ちを推測できない」といった特性を持つ子どもたちがいることが、わかってきたのだ。</p> <p>そんな中、東京学芸大学准教授の濱田豊彦さんが実施する「学習支援ダンボ」の取り組みが注目されている。発達障害をあわせ持つ子どもの教育支援の研究と実践についてレポートする。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 情報・コミュニケーションを保障する制度改革を	<p>障害者にかかわる制度の抜本的な改革をめざして議論が続く、内閣府の障がい者制度改革推進会議。重要なテーマのひとつが「情報・コミュニケーション保障」だ。日本が批准をめざす障害者権利条約をふまえた新しい法制度を、障害者自身が提案、実現しようとしている。</p> <p>情報・コミュニケーション保障を実現する制度改革についての、全日本ろうあ連盟の考え方を聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 日本ろう者劇団 30年の軌跡	<p>ろう者演劇をけん引し続けてきた「日本ろう者劇団」は、今年、誕生して30周年を迎えた。</p> <p>1980年4月、演劇の好きなろう者が集まり「東京ろう演劇サークル」を設立。その後、トット基金の付帯劇団となり、日本ろう者劇団と改称し、発展してきた。</p> <p>日本ろう者劇団は、どのような足跡を残してきたのか、これから何を始めようとしているのか、過去の公演の映像を交えながら、劇団の米内山明宏さんと井崎哲也さんに聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ソーシャルワークを普及させよう	<p>聴覚障害のある人の生活の質を高めるために注目され始めたのが、専門家によるソーシャルワークだ。本人が抱える問題を整理し、使える制度を利用し周囲にも働きかけて、本人が職場や地域で力を発揮しやすいようにする。東京聴覚障害者自立支援センターの相談支援員の矢野耕二さんは、聴覚障害者が働く職場に出かけて障害者が働きやすい職場を作ったり、ろう学校に出かけて生徒の相談に乗ったりしている。</p> <p>ソーシャルワークの実際を紹介しながら、ソーシャルワークの重要性や普及への道筋、課題について聞く。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる ピアノが好き！ ～調樹里杏さん～	<p>聞こえなくても、ピアノを弾くのが楽しくてしかたがない！そう語るのは、神奈川県に住む調樹里杏（しらべ じゅりあ）さん。仕事や子育てと格闘しながら、毎日、自宅のピアノに向かう。</p> <p>調さんがピアノを弾く楽しみは、響き。聞く人に感動してもらえる演奏をしたいと、自分では確認しづらいことをピアノの先生に教えてもらいながら、練習に取り組んでいる。大好きなピアノに一生懸命に向き合う調樹里杏さんを追う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる お便りにこたえて	<p>番組に寄せられたお便りをもとに、3つの話題を取り上げる。</p> <p>（1）読話学習会…東京都八王子市が開催している読話学習会の様子を紹介する。</p> <p>（2）ろう女性史講演会…大槻芳子さんを講師に迎えて開催された、「ろう女性史講演会」の様子を紹介する。</p> <p>（3）人工内耳の聞こえ…虎の門病院（東京都港区）耳鼻咽喉科の医師と患者さんの話を紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる いつも前向きに ～大槻芳子さん～	<p>大槻さんは、1942年新潟県に生まれ7歳で失聴した。大槻さんの名前が広く知られるようになったきっかけは、手話の魅力を多くの人に知ってもらおうと、40代になって始めた手話パフォーマンスと講演のステージ活動だ。さらに50歳を過ぎてからは、全日本ろうあ連盟本部事務所長として活躍した。70歳近くになった今も前向きな生き方は変わっていない。</p> <p>番組では、ろう女性史編さんプロジェクト代表の長野留美子さんが、大槻さんの生き方を聞く。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる ユニバーサルデザインを考える	<p>東京国際空港の新ターミナルをユニバーサルデザインとするため、東京国際空港ターミナル株式会社は2年3か月をかけて障害のある当事者や専門家をUD委員に任命し、検討を続けてきた。議論したテーマは、トイレ、サイン、地図、エレベーター、人的対応など多岐にわたる。</p> <p>番組では、UD委員会による新ターミナルの模擬利用の様相を紹介しながら、ユニバーサルデザインの成果と課題を伝える。</p>	15
発見！人間力 其の94 盲目の演歌歌手 笑顔の秘密	<p>全盲の演歌歌手、清水博正さんは平成2年生まれの青年。魂の歌と言われる彼の熱唱を聴いた人々はみな、その歌声から勇気をもろうという。</p> <p>聴く人だれもが笑顔になるという不思議な歌声の秘密とは。そして、その人間力はどこから生まれるのか。</p>	26
カンブリア宮殿 障害者に働く喜びを日本理化学工業会長 大山泰弘	<p>不況にあえぐ中小企業にあって、社員の幸せを考え続けている会社がある。神奈川県川崎市にある「日本理化学工業」だ。この会社の従業員は74人のうち54人が知的障害者だ。しかも重度の人が半数以上を占めている。障害者の雇用を積極的に進める企業の中でも、草分け的な会社だ。</p> <p>日本理化学工業の50年の歩みと障害者雇用の現実と問題点をあぶりだしていく。</p> <p>【群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ】</p>	44

番組名	内容	時間(分)
目撃者 f 絵里せんせいとスーパーダンスキッズ	<p>最近、子どもたちの間でもヒップホップやストリート系ダンスが大人気で、キッズダンスの全国大会開催など、キッズダンス界はこれまでにない盛り上がりを見せている。</p> <p>福岡市南区にも全国で注目を集めるダンスチームがある。小学生ダンサー日本一を決める大会で前年全国3位。今回は優勝を目指すチーム「絵里ダンス」だ。子どもたちを指導するのは、西畑絵里さん。西畑さんは生まれながらにして重度の難聴という障害をもちながら、高校、大学時代に何度も日本一に輝いた実績がある。その努力は並大抵のものではない。</p> <p>「ダンスの前にまず礼儀」という西畑さんの指導はとても厳しい。「できるかできないかでなく、やるかやらないかよ!」と詰める西畑さんに子どもたちは泣きながら必死の思いで付いていく。</p> <p>さて、今大会の結果は…。【字幕制作：福岡県聴覚障害者センター】</p>	26
ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～(1)抱えてきた“生きづらさ”	<p>「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」…</p> <p>障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、きょうだいは、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。</p> <p>「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとされています。</p> <p>(1)では、「きょうだい」がどんなことに苦しんできたのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(NHKHP参照)</p>	29

番組名	内容	時間(分)
<p>ハートをつなごう きょうだい～障害のある人の兄弟姉妹～ (2) “自分を生きる”ために</p>	<p>「子ども時代に親に甘えられなかった」「大人になっても、自分のために人生を生きられない」…</p> <p>障害のある人や、難病などで長期闘病している人の兄弟姉妹は、「きょうだい」あるいは「きょうだい児」と呼ばれ、成長の過程で悩みや葛藤を抱く人が多いといわれています。しかし、家族支援の必要性が指摘されるようになって、 「きょうだい」は、なかなか支援の対象として捉えられてきませんでした。</p> <p>「自分が悩んでいることで、親を悲しませたくない」、「周囲の人に話せば、自分が悪い人間だと思われるのではないか」…一人で苦しんでいる若者が、数多くいるのではないかとわれています。</p> <p>(2) では、「きょうだい」が、成長の過程で抱えるさまざまな課題を、どうやって乗り越えていけばいいのかを当事者のみなさんとともに考えていきます。(NHKHP参照)</p>	29
<p>ハートをつなごう NHK障害福祉賞 (1) 私の家族</p>	<p>「NHK障害福祉賞」は、障害者自身の体験や、障害児・者の教育や福祉の分野での実践記録などに贈られる賞。</p> <p>この「NHK障害福祉賞」最優秀賞を受賞した徳澤麻希さん。夫の勝也さんが交通事故で車いすの生活になり、麻希さんは、勝也さんの介助とふたりの子どもの子育てに奮闘。夫の勝也さんは障害を抱えながら、子育てにどう関わったらいいのか悩んできた。困難に遭いながらも前向きに生きようとする一家の姿をご紹介します。作品にこめられた思いを伺う。</p>	29
<p>E T V特集 福祉の真価が問われている ～障害者震災1か月の記録～</p>	<p>東日本大震災が起きた日、自らの力で判断したり移動することが出来ない「災害弱者」たちは、どのように避難したのか。運良く避難所に避難しても排尿も自由に出来ず、体を動かすこともままならない。災害弱者に対する福祉を見つめ直す。</p>	59

番組名	内容	時間(分)
福祉ネットワーク 東日本大震災 障害者の1か月 集団避難した人たち	福島県いわき市で、さまざまな支援を受けて自立した生活を送っていた障害者74人が、東日本大震災の影響で長野県へと集団避難をした。今後どのように生活を再建していくのか、ふるさとへの強い思いの中で揺れる障害者の姿を見つめる。	29
福祉ネットワーク 孤立を防げ ～石巻 聴覚障害者はいま～	東日本大震災で被災したろう者の中には、情報が入らず、また支援が受けられずに孤立する方々がいる。彼らの支えとなるのが、設置手話通訳だ。宮城県石巻市で活動する設置手話通訳の姿を通して、被災した聴覚障害者の支援について考える。	29
福祉ネットワーク 東日本大震災 “盲ろう者”になにがおきたか	多くの人に甚大な被害をもたらした東日本大震災。中でも視覚と聴覚の両方に障害を持つ「盲ろう者」は、震災直後の停電や情報網の混乱の中、情報を得る一切の手段を失った。さらに震災は、日ごろ盲ろう者を支えていた支援者の命も奪った。東日本大震災で盲ろう者はどんな事態に直面したのか、そしてどんな支援が必要なのか考える。	29
ろうを生きる難聴を生きる 人工内耳・270人の親の声 ～全国早期支援協議会アンケートから～	内耳に電極を入れることで、聴力の回復をはかる人工内耳。1994年に保険が適用となってからは手術を受ける人が増え、また手術時の平均年齢は2009年には3歳代となった。多くのケースでは、手術を行うか否かの判断は親が判断している現状だ。番組では、聴覚障害児を持つ親を対象に行われたアンケートから、人工内耳に対する親の気持ちを紹介。また人工内耳を装着しながらも、手話の世界に生きがいを見いだした聴覚障害者の姿も紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 検証・韓国手話 ～似ている？似ていない？その実像に迫る～	日本でも学ぶ人が増えている韓国手話。北星学園大学の佐々木大介さんは、言語学の立場から両者を比較研究している。かつて日本が韓国を植民地化していた歴史的背景もあり、韓国手話と日本手話は非常に似ていると言われるが、最近ではその状態に変化が起きているという。韓国手を取り巻く現状を見ていく。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 自分自身への挑戦 ～ライダー高杉奈緒子 日本最高峰レースに挑む～	高杉奈緒子さんは難聴者。23歳の時からライダーとして走り続けている。日本最高峰のオートバイレース「全日本ロードレース選手権」にも参戦中だ。「自分自身の限界に挑戦したい」という高杉さんのレースにかける思いを追った。	15
ろうを生きる難聴を生きる ろう教授奮闘記 ～松崎丈さん～	宮城教育大学准教授の松崎丈さんはろう者。ろう学校の教員を目指す学生たちを指導している。小学校から高校まで普通校で過ごした松崎さんは大学で手話と出会い、現在は手話を使って講義を行う。手話通訳はつけず、学生たちは手話を学びながら松崎さんとコミュニケーションしている。ろう教育を担う学生に期待する思いを、松崎さんに語っていただく。	15
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない大学生への支援 ～生き生きと学ぶために～	現在、大学に進学している聴覚障害学生は1500人ほどおり、その数が増える中、大学での情報保障の整備が急がれている。番組では「日本聴覚障害学生高等教育シンポジウム」の様子を紹介しながら、一部の大学で行われている先駆的な試みを見ていく。お話は筑波技術大学障害者高等教育研究支援センターの白澤麻弓さん。	15
ろうを生きる難聴を生きる ぬくもりを伝えたい ～会津塗り職人・星清一さん～	星清一さんはろうの会津塗り職人、父のあとをついでろう学校卒業後この世界に入って約30年となる。星さんの心の支えは「師匠」でもある父、そして作業を共にするようになった同じ聞こえない妻の存在。一家で伝統工芸を守る姿を紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる “コーダ”を見つめて ～澁谷智子さん～	コーダは聞こえない両親を持つ聞こえる子どもたちのこと。コーダは「ろう文化」と「聴文化」の価値観の違う2つの世界を知る。コーダの子育てや親子関係に注目し研究している澁谷智子さんは、コーダ理解のための活動を続けている。澁谷さんにお話を伺う。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる ろう者の 思いを伝えたい ～映像ドキュメンタ リー作家・今村彩子さん～	今村彩子さんはろうの映像ドキュメンタリー作家。「ユニバーシティライフ～ろう・難聴学生の素顔～」が文部科学省選定作品となるなどいくつかの受賞体験もした。また「伝えたい」が日本民放連盟賞CM部門で優秀賞を受賞した。この作品は静岡県内のサーフ店長（ろう者）が、店を訪れる健聴者と筆談でコミュニケーションする姿を通して「伝える方法はいろいろある。大切なのは伝えたいという気持ち」というメッセージを送るものである。今村さんの思いを伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる つかめ！ 聞こえない人々のニーズ ～しゅわ旅 ツアー～	片桐幸一さんは旅行代理店で働くろう者。ほかのスタッフとともに聴覚障害者の他、さまざまな障害のある人を対象にした旅行を企画している。当事者たちはどのようなサービスを求めているのか片桐さんの体験を通して考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 島の手作 りネットワーク ～隠岐に暮らす聞こ える人とろう者たち～	池田文隆さん、宮子さんは島根県隠岐の島に暮らす健聴者とろうの夫婦。島に15人ほどいるろう者の大半は1人暮らしの高齢者である。島では公的な手話通訳派遣制度が事実上ほとんど機能していない。松江市に派遣を依頼すると1日1便だけのフェリーで片道3時間かけて通訳が来ることになる。日帰りは困難なため、依頼は島の手話サークル代表を務める文隆さんに舞い込む。池田さんの取り組みを紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる “盲ろう 者”を知っていますか？	渡井真奈さんは、夫が盲ろう者で、5年前から、小学校や幼稚園で、盲ろう者について知ってもらうための授業を企画・運営している。授業には、実際に盲ろう者を講師に招き、点字や手話についてのクイズ、子どもたちに実際に盲ろう者の手引きをしてもらう。「盲ろう者についてもっと知って欲しい」と活動する真奈さんの思いを紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 島のろう 者は今	島根県・隠岐は4つの島からなり、約2万人の人々が暮らす。ここには手話で生活する人が10人ほどいる。離島では手話通訳の派遣が難しい場合も多い。島のろう者たちの暮らしを追った。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年3月20日放送)	東日本大震災から9日目の放送。岩手・宮城・福島各被災地の様子、聴覚障害者の状況を、各地のろうあ協会・難聴者協会や手話通訳者から報告してもらう。また被災地の聴覚障害者から番組に寄せられたメールを紹介し、被災者の生の声を伝える。	15
ろうを生きる難聴を生きる この一年を振り返って ～ハイライトシーンをもう一度！～	1年間の放送を振り返り、さまざまな世界で活躍する4人の聴覚障害者の様子を、ハイライトシーンを交えて紹介する。登場するのは、女性ライダーの高杉奈緒子さん、大学准教授の松崎丈さん、会津塗りの職人の星清一さん、旅行会社で手話ツアーを企画する片桐幸一さんだ。	15
ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月3日放送)	東日本大震災関連情報。震災から3週間目の様子を伝える。聴覚障害者救援中央本部の取り組みについてと、岩手県ろうあ協会会長高橋幸子さんの報告。番組後半では、兵庫県立聴覚障害者情報センターの相談員・甲斐更紗さんを迎え、災害時の心理支援について伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 災害関連情報 (平成23年4月10日放送)	東日本大震災から1か月目の様子を伝える。全難聴対策本部の高岡正さんから、難聴者の被災状況・必要な支援について伺う。後半は精神保健福祉士の高山享太さんを迎え、被災した子どもたちをどう受け止め支援していくのかを伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 前編 ～藤田孝子さん～	1964年に制作されたNHKのドキュメンタリー「歳月」は、藤田威さん・孝子さんの聞こえない夫婦が、たくましく生きる姿を描いた作品だ。ろう者への差別がまだ厳しかった時代。さまざまな苦勞に負けず前向きに生きた孝子さんの「あきらめない人生」を伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる あきらめない人生 後編 ～藤田孝子さん～	藤田孝子さんにお話を伺う後編。夫の威さんは島根県のろうあ連盟の中心的存在として活躍した。夫の生前からろうあ運動にかかわった孝子さんだが、当時は女性が前面に出るのは珍しいことだった。夫の死後、島根県のろうあ連盟の会長も務めた孝子さんに、女性ならではの取り組みについて伺う。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅 ～前編～	「デフ・パペットシアター・ひとみ」は、聞こえない人と聞こえる人が力を合わせて上演する人形劇団。結成30周年記念作品の公演に初挑戦する牧野英玄さんの姿を追う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 人形劇と自分探しの旅 ～後編～	「デフ・パペットシアター・ひとみ」の牧野さんはろう学校ではなく一般校で学び、聞こえる世界と聞こえない世界のはざままで揺れ動いていた。人形劇を通して、自分探しの旅を続ける牧野さん。初めての公演を通して、「自分とは何者なのか」が少しつかめたという。	15
ろうを生きる難聴を生きる どんぐりろう重複障害とともに ～知的障害のある仲間のために～	入所授産施設「ふれあいの里・どんぐり」には60人のメンバーが暮らす。その半数以上が、知的障害のある人たちだ。メンバーは共同生活をする中で、使える手話単語の数を増やしたり、買い物をする力を付けたりして、少しずつ成長している。全国的にも先進的と言われる取り組みを伝える。	15
ろうを生きる難聴を生きる どんぐりろう重複障害とともに ～さまざまな“生きづらさ”を支えて～	設立当初の「どんぐりの家」のころとは異なり、今、「ふれあいの里・どんぐり」では、精神障害、ひきこもり、盲ろうなど、さまざまな「生きづらさ」のある人の暮らしを支えている。「ふれあいの里・どんぐり」の取り組みを伝える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 制度改革 ① 必要とする人にサービスを	日本では、軽中度難聴の人は障害認定されず、福祉サービスなどを受けることができない。しかし、日常生活で困っていることは、たくさんある。サービスを必要とする人が、サービスを受けられるようにするための道筋を考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 制度改革 ② どこでもいつでもコミュニケーション支援を	現在、手話通訳派遣事業、要約筆記派遣事業、手話通訳設置事業を実施していない市町村があり、内容も地域格差があることが指摘されている。最新の調査結果をもとに、どこでもいつでもコミュニケーション支援が受けられるようにするための道筋を考える。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 大好きな犬と仲間と ～びわこみみの里の就労支援～	滋賀県守山市にある「びわこみみの里」は、一般企業への就労が難しい聴覚障害者などが、就労訓練を受けたり働いたりする施設。中でもユニークなのは犬の美容師であるトリマーの養成。トリマーを目指す人たちを中心に、みみの里を紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる これからのろう教育 ～第59回全国ろうあ者大会から～	聴覚に障害があっても地域の学校に通う子どもが増える中、ろう学校はどんな役割を果たすのか、ろう学校を魅力的なものにするためには何が課題なのか。ろうあ者大会の様子を紹介しながら、ろう教育の今後について考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 竹の美を極める ～竹工芸作家 杉田静山さん～ 前編	ろうの竹工芸作家、杉田静山（じょうざん）さん。滋賀県指定無形文化財保持者で、その作品はこれまでも高く評価されてきた。2回にわたり、静山さんが創る美の世界と人生について聞く。	15
ろうを生きる難聴を生きる 竹の美を極める ～竹工芸作家 杉田静山さん～ 後編	80歳を目前にした今も作品を作り続けている杉田さん。後編は、高い評価を得たロンドンでの展示と実演について伺う。また、これまで制作をずっと支え続けてきた家族についても伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災 盲ろう者は	岩手県大槌町に住む八幡美知子さん（60歳）は、息子夫婦と孫と6人で暮らしている。震災で家は無事だったが、14年前から八幡さんを支えてくれた通訳・介助者が、津波で行方不明になってしまった。大槌町には、ほかに通訳・介助者はいない。 震災の中での盲ろう者の生活の現状を伝える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 東日本大震災 放射能の不安	ろう者は、放射能や放射能の影響を減らすための注意点について、手話を通して情報を得る機会が少ない。そこで、東日本大震災聴覚障害者救援福島県本部では、手話通訳を付けた専門家の講演会を開いた。放射能汚染と向き合うろう者と、それを支援する動きを伝える。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 災害時の緊急情報をどう伝えるか	<p>東日本大震災では、聴覚障害者の防災や被災者支援において、さまざまな課題が浮き彫りになった。特に情報配信は重要な課題である。</p> <p>災害発生時に確実に情報が届くようにするには、どんなシステムを用意しておくことが必要なのか考える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 災害と聴覚障害者情報提供施設	<p>東日本大震災で、情報提供施設は地元の聴覚障害者団体と協力し、安否確認や被災者支援活動を行った。災害時に重要な役割を担う情報提供施設のない地域では、一日も早い施設設置を望む声が高くなっている。</p> <p>災害時の情報提供施設の役割について伝える。</p>	15
東海北陸ヒューマンドキュメンタリー 聴こえない僕が父になる	<p>ろう者の森本拓磨さんは学生時代にひとめぼれした女性と結婚した。そして同時に5歳の翔太郎君の父親になった。耳の聞こえない森本さんが言葉の壁や血のつながりを超え、翔太郎君の父親になろうとする姿を追う。</p>	29
なんくるないさぁ 耳の日特番 ～今井絵理子が息子と歩んだ6年～	<p>かつてSPEEDのメンバーとして、国民的人気を得た歌手・今井絵理子さん。彼女の一人息子、礼夢くんは耳が聞こえない。「聞こえないことは息子の個性」と言い切る絵理子さんは、礼夢くんを連れて全国のろう学校や施設を回り、コンサートを行っている。自ら手話を学び、息子とコミュニケーションし、そして歌い続ける絵理子さんの姿を追った。</p>	45
'11ドキュメント静岡 伝えたい思い ～言葉を越えたコミュニケーション～	<p>映像作家の今村彩子さんはサーフショップを経営している太田辰郎さんを1年以上取材し、ドキュメンタリー映画を制作している。今村さんも太田さんも耳の聞こえないろう者である。</p> <p>音のない世界に生きる今村さんの「伝えたい思い」を紹介する。</p>	48

番組名	内容	時間(分)
NNNドキュメント'11 3・11 大震災 シリーズ16 手話で伝えた 被災地 ～心の壁を越えて～	今村彩子さんはろう者の映像作家。東日本大震災の直後から現地入りし、被災したろう者たちの姿を撮り続けてきた。以前は手話のできない聴者とのコミュニケーションにあまり積極的ではなかったという今村さん。しかしあるろう者との出会いで、自分の心の壁に気づく。被災したろう者の復興も、それぞれが心の壁を超えたとき、何かが見えてくるはず。それを信じて、ひたむきに作品づくりに向き合う今村さんの姿を追う。	25
JNN九州沖縄ドキュメント ムーブ 手話で生きたい	乗富秀人さんは熊本に住む画家。描くのは、デフアートと呼ばれる「音のない世界の人たちの想いを表現する」絵画だ。口話教育で厳しく育てられた乗富さんは就職してからも、聴者ばかりの社会で孤独感を強めていた。転機となったのは26歳の時に絵の勉強のために向かったパリ。ろう教育発祥の地フランスで、ろうであることに誇りを持って生きる芸術家たちと出会う。今、乗富さんはろう者の誇りを持って、「手話で生きたい」と強く思っている。	25
架け橋 第1弾 ～東日本大震災 宮 城の被災ろう者は今～ 第2弾 ～東 日本大震災 一ヵ月後の被災ろう者～ 第3弾 ～東日本大震災 地域の絆～	甚大な被害をもたらした東日本大震災。その時、聞こえない仲間たちは、建物の倒壊した町で、避難所で、何を思いどう過ごしていたのか。ろう者である今村彩子監督が見た被災地とは、そして聞こえない仲間たちとは…。渾身のドキュメンタリー作品。	75
福祉ネットワーク この人と福祉を語 ろう デザインで描く生きる希望 ～ 建築家 伊東豊雄さん～	各界の著名人に、その人なりの福祉論を語ってもらおう「この人と福祉を語ろう」。今回のゲストは、世界的な建築家の伊東豊雄さん（70歳）。東日本大震災によって暮らしや地域社会が奪われた被災者たち。伊東さんは震災直後から被災地に入り、「建築の力」でコミュニティーの復興再生を支援するために力を注いできた。多くの喪失を経験した被災者の心と生活の復興再生を、どうデザインの力で支援しようとしているのか、話を伺う。（NHKHPより）	29

番組名	内容	時間(分)
アスリートの魂 私はもっと速くなる 車いすマラソン 土田和歌子	パラリンピック車いすマラソン日本代表、土田和歌子選手。17歳で足の自由を失った後、幾多の苦難においても常に前を向いて走り続け、夏と冬のパラリンピック両方で金メダルを獲得。まだ手にしていないのが、車いすマラソンでの金メダルだ。レース中の事故で大けがを負った北京大会から4年、37歳の肉体は衰えを隠せないが、「最後のチャンス」と臨むロンドンに向けた激闘の日々に密着した。	44
ハートネットTV NHKハート展 叱られたとき	障害がある人が作った詩に著名人が絵をつけるアートのコラボレーション「NHKハート展」。今回は入選者の中から、茨城県に住む遠藤真宏さん（19歳）の作品をとりあげる。真宏さんは知的障害と自閉症がある。小さい時は、自分の感情をコントロールできず、ほとんど人と関わることもできなかった。母親の礼子さんは、幼少から2つのことを心がけて、真宏さんに向き合ってきたという。（NHKHP参照） 2つのこととは…？	29
東日本大震災6か月 取り残される障害者	東日本大震災から6か月がたち、NHKでは独自の取材によってある数字を得た。そのデータによると、障害のある人の死亡率は障害のない人に比べて、2倍近くも高かった。その結果から見えてきた被災地の障害者の現実、課題を伝える。障害者が取り残されることのない社会に向かって、何が必要で、今何をしなければいけないのか考える。	89
ろうを生きる難聴を生きる 明日へのシュート ～デフバスケットチーム 宮城クローバーズ～ 前編	愛知県で開かれた全国ろうあ者体育大会に東日本大震災の被災地から参加した、デフバスケットボールチーム「宮城クローバーズ」。メンバーの中には肉親を失った人もいる。被災者の支援に走り回った人もいる。 震災の影響で十分な練習ができなかったメンバーの思いを追う。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 明日へのシュート ～デフバスケットチーム 宮城クローバーズ～ 後編	東日本大震災の被災地の宮城から、全国ろうあ者体育大会参加を決めた「宮城クローバーズ」。しかしメンバーは5人だけ。控え選手もいない人数で大会に参加したクローバーズの戦いぶりを追う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 難聴児教育① 学びやすい学校作り ～ある夫婦のとりくみから～	秋田県に住む荒巻晋治さん里美さん夫妻は、長男の修治君（10歳）が秋田市立御所野小学校難聴児学級に入学して以来4年間、難聴児にとって学びやすい学校を目指して活動を重ねてきた。親子の軌跡と現在の学校のとりくみを2回シリーズで送る。 1回目は情報保障に焦点を当てる。	15
ろうを生きる難聴を生きる 難聴児教育② 子どもはこう感じている ～難聴児の“手記から”～	難聴児教育2では、学校生活について書いた修治君の作文を取り上げる。 日々学校で起きたことを、修治君はどう受けとめ、成長していったのか。子ども自身の感じ方から難聴児教育や学校のありかたを考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 防災を考える ～全国難聴者・中途失聴者福祉大会 in あおもり～	青森市で開催された「第17回全国難聴者・中途失聴者福祉大会」では、さまざまな分科会の中でも、防災について考える分科会への出席者が多かった。 防災を中心に「福祉大会 in あおもり」を伝える。	15
ろうを生きる難聴を生きる 司法手続きにおける配慮を ～障害者基本法が求めるもの～	2011年に改正障害者基本法が成立し施行された。その中に新しく盛り込まれた条文の1つが司法手続きにおける配慮である。 ろう者がかかわる裁判や事件の取り調べ等のコミュニケーション保障について考える。	15
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ ところの病 ①ストレスと発症	聴覚障害者が精神疾患になった場合、聴覚障害の理解が必要だと言われる。 2回シリーズで、統合失調症のろう者の発症から回復までを例に、聴覚障害者の精神保健について伝える。 1回目は、聴覚障害者にとってのストレス、治療におけるコミュニケーションの大切さに焦点をあてる。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ こころの病 ②仲間・生きがいと回復	<p>都内に住む統合失調症のろう者（４８歳）は、作業所に通い、弁当の調理の仕事を任されるようになってから、やりがいを感じるようになった。また、精神疾患のある聴覚障害者の仲間と会う場が支えになっている。</p> <p>こころの病シリーズの２回目は、生きがいになる目標を作ることや、仲間作りの大切さに焦点をあてる。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生 大矢暹さん ①差別をなくすために	<p>大矢暹さんは「淡路ふくろうの郷」で施設長を務めている。ふくろうの郷には聞こえないお年寄りが多く暮らしている。</p> <p>いつも穏やかな笑顔でお年寄りと接する大矢さんの人生は、まさに闘いの連続だった。</p> <p>大矢さんの闘う人生を２回シリーズで送る。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 闘う人生 大矢暹さん ②聞こえない高齢者のために	<p>ろう学校時代、教師たちの差別や偏見と闘った大矢暹さんは、卒業後は社会の中のさまざまな壁に立ち向かった。</p> <p>大矢暹さんの闘う人生シリーズ２回目は、聞こえない高齢者が暮らしやすい社会にしようと活動した思いを伺う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 日々是修業 表具師 中河吉由樹さん	<p>表具師の中河吉由樹（なかがわよしゆき）さんは中途失聴のために、目指していた表具師の道を一時はあきらめた。だが復職を可能にしたのは人工内耳だった。表具師という仕事を「人生でこれほど打ち込めたものはない」と言い切る中河さん。表具の技を磨き続ける中河さんの日々を追う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる イグ・ノーベル賞と聴覚障害者 ～わさび臭火災警報装置～	<p>イグノーベル賞とは、人を笑わせ考えさせる独創的な研究に贈られる賞だ。化学賞を受賞した日本人のグループが開発したのは、「わさびのにおいで火災を知らせる警報装置」。装置の開発には、多くの聴覚障害者が協力した。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 手話の権利を確立させよう 「手話言語法」制定運動	2011年7月「改正障害者基本法」が成立し、日本で初めて「手話は言語である」ということが認められた。手話の権利をさらに確かなものにしようと、全日本ろうあ連盟が進めているのが、「手話言語法（仮称）制定推進事業」。手話言語法はどんな権利の確立を目指しているのか。ろうあ連盟の西滝憲彦さんに伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる子を育てる親へ ～「コーダ」からのメッセージ～	聞こえない親から生まれた子どもをコーダと呼ぶ。聞こえない親は、コーダの子育てに迷いを持つことがあるという。そんな親たちを支援するため、聴力障害者情報文化センターがDVDをつくった。乳幼児期や学齢期の子育てについてわかりやすく解説している。DVDに解説者として登場する金沢大学の武居渡さんと声優の佐田明さんの2人のコーダが、コーダの子育てについて語り合う。	15
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ 若者が見たアメリカ① 前向きな生き方 ～西川愛理さん～	手話で学べる大学「ギャローデット大学」。アメリカでは、大学で専門的なことを学ぶ若い難聴者やろう者が増えている。難聴者の西川愛理さんも、自分の難聴について学びたいと、アメリカの大学でオーディオロジを学んだ。 海外の仲間と触れあう中で、難聴者として生きること自信を持ったという西川さん。彼女を変えたきっかけについて伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる シリーズ 若者が見たアメリカ② 聞こえない人への相談支援 ～高山亨太さん～	精神保健福祉士であり、社会福祉士でもある高山亨太さんは、3年間ギャローデット大学で、聞こえない人のソーシャルワークについて学んだ。現在は、聴覚障害のある子どもたちの相談にあたっている。高山さんがアメリカでみた聴覚障害者への専門的な支援について伺う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 手話通訳制度を考える	聴覚障害者の暮らしに欠かせない手話通訳。去年、高松市で手話通訳の派遣を市が認めない例が起きた。ろう者の母親が、娘が進学を希望する専門学校の説明会への通訳派遣を依頼したが、市に断られたのだ。母親は裁判を起こすことにした。手話通訳制度の何が問題なのか、どう変えるべきなのかを考える。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 世界ろう者卓球選手権まで2か月(1) つかめ金メダル! ー上田萌さんー	東京富士大学・卓球部の上田萌さんは、第2回世界ろう者卓球選手権大会に出場する。第1回大会は銅メダル、デフリンピックでは決勝まで進んだが、惜しくも金メダルを逃した。今度こそ世界の頂点を目指す上田選手の挑戦を追う。	15
ろうを生きる難聴を生きる 世界ろう者卓球選手権まで2か月(2) 夫婦で挑む ー有馬歎生さん・千寿子さんー	東京で開かれる第2回世界ろう者卓球選手権大会。その強化合宿に夫婦で参加した有馬歎生・千寿子夫妻。第1回大会では千寿子さんが4位、歎生さんは32位だった。認め合い支え合って世界に挑む夫婦の日常を追った。	15
ろうを生きる難聴を生きる 防災・減災のために	聴覚障害のある人の命を災害から守るためには、警報や避難指示を確実に伝えることが必要だ。自治体が緊急情報を出す時は、音声だけでなく文字などの視覚情報でも出さなくてはならない。同時に、1人1人の日ごろの備えも大切だ。情報をどのように得るのか、何を持ち歩くか。聴覚障害者の防災・減災に役立つモノやサービスを紹介する。	15
ろうを生きる難聴を生きる 検証 障害者自立支援法改正案	<p>「障害者自立支援法改正案」は、名前を「障害者総合支援法」とあらため、これまで福祉サービスを受けられなかった難病の患者もサービスの対象に広げるなどとしている。</p> <p>しかし、この法案に対しては、障害者自立支援法に代わる福祉制度について話し合ってきた「障がい者制度改革推進会議」の総合福祉部会の骨格提言とかけはなれている、などとする批判がある。</p> <p>聴覚障害者団体からの出演者とともに、改正案を検討する。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる いくつか宇宙へ ～JAXA開発員 長谷川晃子さん～	<p>2010年、地球に帰還した、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の探査機「はやぶさ」。</p> <p>その「はやぶさ」の帰還作業にかかわった長谷川晃子さんは、聴覚障害のある女性職員だ。</p> <p>子どものころから天文台に行くことが好きだった。いくつか宇宙へ行くことを夢見て、「宇宙からの第一声は手話で伝えたい」と語る長谷川さんに、JAXAでの仕事の内容と、宇宙への思いを聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く① ろう児のために	<p>「NHKみんなの手話」講師の早瀬憲太郎さんは、ろうの子どもたちに日本語の力を身につけてもらおうと、ろう児向けの塾の活動をしている。ろう児が自分の夢を実現するときに、日本語の読み書きの力が必要になると思うからだ。ろう児のためにできることは何かと考え続ける早瀬さんにお話を伺う。2回連続シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 早瀬憲太郎に聞く② 先輩の生きざまを伝えたい	<p>2009年、早瀬さんが監督した映画「ゆずり葉」が公開された。全日本ろうあ連盟の創立60周年を記念して制作されたこの映画は、「ろう児たちにろうあ運動の歴史をわかりやすく伝えたい」という早瀬さんの発案からスタートした。</p> <p>早瀬さんに、聞こえるスタッフに囲まれて奮闘した撮影時のエピソードや、それぞれのシーンに込められた思いなどを伺う。2回連続シリーズの2回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 手話コーパスを作る	<p>筑波技術大学の准教授でろう者の大杉豊さんが、ほかの研究者と共同で、日本手話の「コーパス」作りを始めた。</p> <p>手話コーパスとは、手話を動画で記録し大量に蓄積したデータのこと。日本語訳や、手の形や位置関係、顔の動きなどの情報を書き込んでいく。言語学的研究に役立つものにするとともに、若いうちが先輩ろう者の手話表現に関心を持つきっかけになるものを作りたい、と大杉さんは語る。</p> <p>日本手話コーパスの意義について、大杉さんに聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる わたしの絵は“ことば” イラスト作家 杉本聖奈さん ～前編～	<p>イラスト作家の杉本聖奈（まりな）さんは、生まれたときから聴覚障害がある。</p> <p>聖奈さんは、幼いころ、ことばを覚えることが苦手だった。ことばを学習するための「絵カード」を、母親の香苗さんが手作りしたことがきっかけで、聖奈さんは絵で気持ちを表現することが大好きになり、今ではイラスト作家として一歩を踏み出した。聖奈さんの成長の過程と、ほのぼのとした作品を描き続ける日々を追う。2回シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる わたしの絵は“ことば” イラスト作家 杉本聖奈さん ～後編～	<p>イラスト作家の杉本聖奈（まりな）さんが最近手がけているのは「立体絵」。街を歩く人々、大好きな鉄道など、日常のなにげない風景をスケッチしてイラストを描く。建物や人物を切り抜き、何層も重ねて奥行きを感じさせる作品を作る。</p> <p>2011年12月には、はじめての個展を開いた。大勢の人から評価される中で、聖奈さんは自分の絵に、そして自分自身に自信を持てるようになった。2回連続シリーズの2回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 2012 世界ろう者卓球選手権大会 前編	<p>4月29日から5月6日まで東京で開かれた「2012世界ろう者卓球選手権大会」。16の国と地域から、選手・役員126人が参加した。世界の強豪と戦った日本選手を追う。</p> <p>日本代表として参加した選手の一人梅村正樹選手や、夫婦で混合ダブルスに出場した有馬歓生・千寿子選手の戦いぶりなど、大会前半を紹介する。2回連続シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 2012 世界ろう者卓球選手権大会 後編	<p>「2012世界ろう者卓球選手権大会」。この大会では女子が大活躍した。女子団体優勝に引き続き、女子ダブルスで上田萌・佐藤理穂組が優勝、女子シングルスでは、上田が金・佐藤が銀という成績を残した。</p> <p>強豪・中国との接戦の末メダルを勝ち取った二人の戦いぶりを中心に、大会後半を紹介する。2回連続シリーズの2回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる めざせ！ 日本語・手話CG自動翻訳	<p>NHK放送技術研究所の研究成果を公開する「技研公開」。昨年に引き続き注目を集めたのが、日本語を手話CGに自動翻訳する研究だ。</p> <p>日本語の文章を打ち込むと、ほとんどリアルタイムで手話CGを生成する。研究のポイントは、過去の膨大な翻訳用例などを参照しながら行う翻訳の技術と、手話単語のCGとCGをなめらかにつなぐ技術の開発だ。日本語から手話CGへ自動翻訳する研究の最新情報を伝える。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 震災を撮り続ける ～今村彩子さん～	<p>今村彩子さんは、映像作家として知られるろう者。東日本大震災が発生してまもなく宮城県に入った。以来、これまでに6回、被災地に入り、被災したろう者の暮らしを撮影し続けている。</p> <p>その映像を編集し、最近完成させたのが「手話で語る3.11」というDVD。地震のときのろう学校の様子や、住みなれた地域を離れた仮設住宅での暮らしなどを、ろう者が手話で語る。このDVDの一部を紹介しながら、震災を撮り続ける今村さんに話を聞く。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 第60回 全国ろうあ者大会 in Kyoto ① ～運動の歴史～	6月6日から10日まで、京都で「第60回 全国ろうあ者大会」が開かれた。 1回目は、「運動」研究分科会に焦点を当て る。連盟副理事長の松本晶行さんが、本人に無 断で不妊手術が行われるなど人権が無視されて いた時代のことや、そうした状況を差別ととら えて立ち上がった若者のことなどを語った。ほ かに、参加者のインタビューなど。	15
ろうを生きる難聴を生きる 第60回 全国ろうあ者大会 in Kyoto ② ～制度改革～	京都で開催された「第60回全国ろうあ者大 会」。2回目のこの回は、「制度改革」研究分 科会に焦点を当てる。分科会で講演した、内閣 府の障がい者制度改革推進会議担当室の東俊裕 室長は、「福祉法の充実と並んで差別禁止法の 制定が必要」と語る。ほかに、さまざまな展示 や式典を紹介。	15
ろうを生きる難聴を生きる 学校訪 問・東京都立大塚ろう学校(1) こ とばを育む	聞こえない子どもの教育はどのように行われ ているか、ひとつの例として、東京都立大塚ろ う学校の取り組みを紹介する。 大塚ろう学校には幼稚部と小学部があり、本 校と3つの分教室に173人の子供が通う。幼 稚部では、手話を覚えるとともに、指文字を通 して日本語を学んでいく。また、小学部では、 手話を使って教科書を理解しながら、算数・国 語・理科・社会を学ぶ。 ことばを育む授業を中心に取り組みを伝え る。2回連続シリーズの1回目。	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 学校訪問・東京都立大塚ろう学校(2) 人と関わる力を	<p>前回に引き続き、東京都立大塚ろう学校のとりくみを紹介する。2回目は、聴覚障害のある子どもに社会性や「人と関わる力」を身につけてもらう取り組みについて。</p> <p>幼稚部になると、友だちとの関係が成長に重要な意味を持つようになる。聞こえない子どもたちは手話でけんかをし、相手の気持ちを手話で理解して仲直りしていく。</p> <p>「大塚クラブ」というNPO法人の活動では、校内校外から聞こえない子どもが参加し、ろうの大人や地域の人とともに、さまざまな集団活動を行う。授業とは異なる場で、子どもたちは、人との関わり方を学んでいく。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる あきらめない 沖縄“風疹児”比嘉真弓さん 前編	<p>沖縄では、1960年代半ばに風疹が大流行した。妊娠中の母親が風疹に感染したことにより、およそ400人の障害児が生まれた。そのほとんどは聴覚障害がある子どもたちだった。</p> <p>風疹児たちの一人、比嘉真弓さんは、聞こえないことでいじめにあったが、「自分がくよくよしては前に進めない」と頑張った。高校生のとき、担任から勧められたのは、「NHK青年の主張」に出場すること。真弓さんは、自分の生き方を熱く語り、県大会で優勝した。2回連続シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる あきらめない 沖縄“風疹児”比嘉真弓さん 後編	<p>風疹児の一人、比嘉真弓さんは、現在県立病院で事務の仕事をしている。周囲に自分の障害のことを説明し、「口元を見せてはっきり話して」と伝えることで、スムーズに仕事を進めている。</p> <p>最近、「音楽」に挑戦。夫が始めた手話カフェで、車いすの歌手・我如古盛健（がねこせいけん）さんに出会ってから、苦手だった音楽が「こころに響く」と感じ始めた。自分の書いた詩を、自分のリズムとメロディーで、自分の声と手話で歌うことに挑戦し始めた。2回連続シリーズの2回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 残存聴力活用型人工内耳	<p>高音域の聴力がなくなっても低音域の聴力が多少残っている人は、これまで人工内耳装用の対象にならなかった。しかし、低音域の聴力が残っていても、生活上、著しく不便を感じる人は少なくない。そうした人のために作られたのが、低音域の聴力は補聴器で補いながら、高音域は人工内耳を利用する「残存聴力活用型人工内耳」だ。</p> <p>虎の門病院（東京）の耳鼻咽喉科部長・熊川孝三さんに、「残存聴力活用型人工内耳」の特長や適応について聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 補聴は工夫できる ～めだかの学校～	<p>「めだかの学校」（愛知県蒲郡市）は、難聴者自身が、聞こえをよくするための工夫を重ね、聞こえに悩む人の相談に乗っている団体だ。校長の三好和宏さんは、47歳のとき、病気がもとで難聴になり、補聴器を使い始めた。しかし、いまひとつその効果が実感できず、さまざまな補聴の工夫を重ねてきた。</p> <p>「めだかの学校」の様子と、三好さんたちの補聴の工夫の数々を紹介する。</p>	15
福祉ネットワーク シリーズ いま、“言葉”を力に① ろう重複障害者を支える	<p>人は言葉によって、人とコミュニケーションを取る。ろう重複障害を持つ方は、それが困難なために、孤立したり引きこもるケースが多いと言われる。</p> <p>どのような取り組みが求められているのか、支援を行う名古屋の施設を取材した。</p>	29
福祉ネットワーク 福祉用具の事故をどう防ぐ	<p>障害者や高齢者をサポートする福祉用具。しかし、その利用中の事故が多発している。</p> <p>生活の助けとなる福祉用具で、なぜ事故が起きるのか。安全に活用するために何が必要なのか。具体的な対応策や事故を防ぐ新たな動きを探る。</p>	29
由香ちゃんは小さな通訳者 一ろう啞家族の9年間の記録―	<p>若松由香ちゃん（9歳）は、兄と両親の4人家族。両親は耳が聞こえないろうあ者だ。由香ちゃんは今日も小さな手を動かして、両親のために一生懸命通訳をする。一家4人の心温まる絆を描く、昭和60年代のろう者の生活を記録したドキュメンタリー。</p>	46

番組名	内容	時間(分)
ハートネットTV みつえとゆういち 一親子で紡ぐ“認知症”漫画一	日本の認知症高齢者は300万人を超え、今多くの人がさまざまな困難に直面しながら家族の介護に格闘している。認知症とどう向き合えばよいのだろうか。記憶を失いながら生きるとはどういうことなのだろうか。番組では、自身も認知症の介護の経験がある作家の田口ランディさんとともに、岡野さんの漫画が問いかけるメッセージをひもときながら、認知症介護のあり方を見つめ直す。(NHKHP参照)	29
ろうを生きる難聴を生きる “たま手ばこ”の紙芝居① マボロシノハナ	<p>「たま手ばこ」は、ろう者の那須善子さんと、聞こえる樋口澄江さん・小泉京子さんの3人が作る、紙芝居と手話語りのグループ。各地のろう学校やイベントに招かれて、公演を続けている。この「たま手ばこ」の公演を2回にわたって紹介する。</p> <p>演目は「マボロシノハナ」。好奇心旺盛な子どもクロとマシロは、ある日大きな川を渡って向こう岸に行く。親から「行ってはいけない」と言われていた場所だ。そこには楽しいことがいっぱいあったが、食いしん坊のマシロが毒草を食べてしまい…。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる “たま手ばこ”の紙芝居② ユメノシマ	<p>紙芝居と手話語りのグループ「たま手ばこ」の公演を、前回に引き続き紹介する。</p> <p>今回の演目は「ユメノシマ」。好奇心旺盛な子ども、クロとマシロはある日、洞窟に入った。親から「行ってはいけない」と言われていた場所だ。2人は、そこで出会った海賊船の船長とともにユメノシマに出かける。ユメノシマは、甘いお菓子でできた島だった。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 途上国の障害者とともに ～アジア経済研究所 森壮也さん～ 前編	<p>途上国の障害者の生活を向上させるためには、調査による実態把握と研究が欠かせない。その研究者の1人が、ろう者の森壮也さんだ。森さんは、日本貿易振興機構「アジア経済研究所」主任研究員として、「障害と開発」の分野で10年間、調査・研究を続けている。その森さんに2回にわたって話を聞く。</p> <p>前編は、途上国で障害のある人の生活を障害のない人の生活と同じように改善していくために必要となる「障害と開発」の視点について伺う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 途上国の障害者とともに ～アジア経済研究所 森壮也さん～ 後編	<p>途上国の障害者の生活を向上させるため現地調査を続ける森壮也さんに、前回に引き続き話を聞く。</p> <p>後編は、森さんたちが2007年から始めたフィリピンの障害者の生計調査から浮かび上がった障害者の深刻な生活実態や、途上国における障害当事者団体の役割、これからの国際協力について伺う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる “海の魅力を伝えたい” 水族館学芸員 長谷部阿由美さん	<p>難聴者の長谷部阿由美（はせべ・あゆみ）さんは、静岡県にある東海大学海洋科学博物館の学芸員。大学で海の生物について学び、「多くの人に海の魅力を伝えたい」と水族館に就職した。</p> <p>魚たちの泳ぎ方チェックや水槽掃除、餌やりなどの日々の業務や、小中学校の体験学習案内など、水族館の仕事に励む長谷部さんの一日を追う。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 地域のろう者に寄り添って ～NPO法人にいまーる①～	<p>新潟市のNPO法人「にいまーる」は、ろう者の就労支援と手話の普及に取り組んでいる。その運営に中心となって取り組むのは、ろう者の臼井千恵さん。</p> <p>臼井さんは、地域活動支援センター「手楽来家（てらこや）」をオープンさせた。「手楽来家」は、聞こえない人たちの就労支援に取り組む。中でも宅配便の会社から受注するメール便の配達は今現在300通にのぼる。聞こえない人たちの仕事ぶりや支援を行うスタッフの活動を紹介する。2回シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 築け！健聴者とのネットワーク ～NPO法人にいまーる②～	<p>新潟市のNPO法人「にいまーる」の活動を、前回に引き続き紹介する。</p> <p>「にいまーる」の臼井さんは、新潟大学手話サークルや新潟市郊外の公民館での地元手話サークル会員への手話指導や、新潟市のビジネス専門学校で手話の講義を受け持っている。</p> <p>ビジネス専門学校では、去年から手話のスピーチ大会が秋に行われるようになった。大会に向け、出場する学生への指導にあたる臼井さんの姿を追い、大会の模様を紹介する。2回シリーズの2回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない学生が大学で学ぶために① 情報保障	<p>聴覚障害のある学生のために情報保障を行う大学はしだいに増えてきているが、情報保障の量や質はさまざま。</p> <p>群馬大学を例に、2人のテイカーが連携して入力し教員の話のほとんどを文字化しようというパソコンテイク、講義のライブ感まで伝えられる手話通訳、聴覚障害のある学生に的確にアドバイスできる支援室などのとりくみを紹介し、情報保障のありかたについて考える。2回シリーズの1回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえない学生が大学で学ぶために② エンパワメント	<p>エンパワメントとは、学生自身が「問題を解決する方法を考え、環境を変えていく力」を高めていくこと。大学の情報保障を充実させるためにも、社会に出て働く準備をする上でも、大学在学中のエンパワメントの機会が重要だと言われる。</p> <p>宮城教育大学で開かれた「聴覚障害学生エンパワメント研修会」に密着、情報保障と並んで大切なエンパワメントについて考える。2回シリーズの2回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ろう重複の子どもを地域で育てる ～NPO法人“つくし”①～	<p>愛知県内で6つの事業所を運営するNPO法人「つくし」は、ろう重複障害のある大人の支援とともに、学齢期の子どもの支援を行っている。</p> <p>「つくし」の事業所のひとつ「おれんじ」では、手話のできるスタッフが、ろう学校への通学や、子どもの土日の外出に付き添う。「おれんじ」の活動を通して、ろう重複の子どもに対する移動支援の意義を伝える。2回シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる ろう重複の子どもを地域で育てる ～NPO法人“つくし”②～	<p>NPO法人「つくし」の事業所のうち、ろう重複の子どもの放課後支援を行うのが、名古屋市の「つくしっこ」と豊橋市の「楓（かえで）」。放課後や土日の「活動の場」を提供する取り組みだ。友だちと自由に遊ぶ、友だちや職員の手話に触れる、そうしたことのひとつひとつが、ろう重複の子どもの成長につながっていく。</p> <p>「楓」の活動を通して、ろう重複の子どもに対する放課後等デイサービスの意義を伝える。2回シリーズの2回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 全国中途失聴者・難聴者福祉大会 in 埼玉	<p>さいたま市で開かれた「第18回全国中途失聴者・難聴者福祉大会」。制度改革、メンタルヘルス、補聴の工夫など、さまざまなテーマについて話し合う分科会と、全体会が行われた。</p> <p>ニーズはあるのに福祉サービスを受けられない「中軽度難聴」の人への支援について考えた「制度改革分科会」（障害の範囲とデシベルダウン運動）を中心に、この大会を紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 写真家① 鉄道の輝きを 持田昭俊さん	<p>ろう者の持田昭俊さんは、2012年でプロ活動25周年となるベテランのカメラマンだ。</p> <p>持田さんは、光と影をたくみに表現したSLの写真で知られているが、それと並んで多くのファンを魅了しているのが新幹線の写真。スピード感とフォルムの美しさを表現するために、これまでさまざまな工夫を重ねてきた。持田さんの撮影の様子を紹介しながら、鉄道写真へのこだわりを聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 写真家② その人らしさを 齋藤陽道さん	<p>ろう者の齋藤陽道さんは、新人写真家の発掘をする「写真新世紀」で優秀賞を取るなど、注目される若手カメラマンの1人。1年前に出版された写真集「感動」が評判を呼んでいる。</p> <p>「感動」には障害のある人やお年寄りの写真が並び、「その人でしかありえない日常」が描かれている。視覚障害のある太鼓奏者を撮影する様子を紹介しながら、人物写真へのこだわりを聞く。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 聴導犬のいる暮らし(1) 安心がそこにある 東彩さんと“あみのすけ”	<p>東彩（あずま・あや）さんは、京都生まれ。10年前に結婚し、夫の転勤で埼玉県へ引っ越してきた。周りの人がいろいろと教えてくれたそれまでと違い孤独感が強く、また、聞こえないことから仕事もうまくいかず、聴導犬を利用することにした。</p> <p>聴導犬「あみのすけ」は彩さんに、チャイムやファックスの着信音などさまざまな音を教えてくれる。去年9月に生まれたばかりの娘・史帆ちゃんの泣き声も知らせてくれる。安心して暮らせるようになった東さん一家の日常を紹介する。2回シリーズの1回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 聴導犬のいる暮らし(2) 自信をくれた 岸本淑子さんと“みかん”	<p>岸本淑子さんと夫の宗也さんは、ともに耳が聞こえない。聴導犬「しん」とともに暮らしている。</p> <p>最初の聴導犬「みかん」は、12年前に岸本家にやってきた。当時、淑子さんはたいへんな人見知りだったが、「みかん」と生活するようになって、家族が驚くほど変わっていった。自分に自信が持てるようになったのだ。「みかん」は、2012年7月に亡くなった。岸本さんが「みかん」とともに過ごした日々を振り返る。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック2013 雪辱を誓って ～男子サッカー～ 前編	<p>2013年7月26日～8月4日、ブルガリアのソフィアで、第22回夏季デフリンピックが開かれた。デフリンピックは、4年に1度開かれる、ろう者のスポーツの祭典だ。</p> <p>金メダルを目指して練習に打ち込む男子サッカーのメンバー。代表候補合宿の様子や、日々の生活の中でトレーニングを重ねる選手の姿を追う。2回シリーズの1回目。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる デフリンピック2013 雪辱を誓って ～男子サッカー～ 後編	<p>前回のデフリンピックで12位と低迷した男子サッカー。チームはその悔しさを胸に練習を重ね、去年はアジア大会で初優勝した。今回の大会の派遣が決まれば、アジアチャンピオンとしてデフリンピックに挑むことになる。</p> <p>2月に鹿児島で行われた代表候補合宿や、仕事をしながらサッカーに打ち込む代表候補選手の日常の姿を伝える。2回シリーズの2回目。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる 聞こえる仲間と最高のダンスを 高木里華さん	<p>高木里華さんは、手話パフォーマー。38歳でOLを辞め、専門学校でダンスを学んだ。それまでにない、手話とダンスを融合させた表現をしたいと思ったからだ。以来10年間、もとの曲の歌詞を自然な手話に移し替える翻訳と、ダンスを取り入れたリズムカルな動きを追求してきた。</p> <p>高木さんは、いま、聞こえる仲間とともに、手話パフォーマンスの公演をしている。聞こえない人と聞こえる人が助け合うことで、よりすばらしいパフォーマンスができると語る高木さんの思いと、ろう学校でのワークショップの様子を紹介する。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる 手話のすすめ 中途失聴した人へ 佐々木あやみさん	<p>佐々木あやみさんが聴力を失ったのは27歳のとき。子ども向けのショーで、司会と歌の仕事をするのが好きだった佐々木さんにとって大きなショックだった。しかし、「中途失聴者のための手話教室」にめぐり会い、通じる喜びを知って元気を取り戻した。</p> <p>佐々木さんは、さまざまな人が気軽に手話を学んだり話せたりする場を作ろうと、「しゅわっとつばさ」という団体を立ち上げ、月1回の集まり「手話しゅわ～」を開いている。中途失聴者、ろう者、聞こえる人が気軽に参加し会話を楽しむ「手話しゅわ～」の様子を紹介しながら、中途失聴した人にとっての「手話」について、伺う。</p>	15
ろうを生きる難聴を生きる もっとループを ～よりよい聞こえのために～	<p>「ヒアリングループ（磁気誘導ループ）」は、補聴器や人工内耳に明瞭な音を送り込むためのしくみのひとつ。マイクでひろった音声をアンプで増幅し、輪にした電線に流す。海外では、ホールや駅などの公共施設をはじめ、タクシーの中などにも設置されているが、日本では、ほとんど普及していない。</p> <p>音楽会の会場にループを設置する試みなどを紹介しながら、ループ普及の活動を続ける東工大教授の中村健太郎さんに、ループの可能性について聞く。</p>	15

番組名	内容	時間(分)
ろうを生きる難聴を生きる “進化する字幕”を ～要約筆記サークル「まごのて」～	<p>名古屋市の要約筆記等研究連絡会「まごのて」は、「名古屋難聴者・中途失聴者支援協会」と連携して、情報保障の取り組みを続けてきた。</p> <p>そのモットーは「進化する字幕」。ユーザーの意見を聞き、情報保障をする「場」を広げ、やりかたを工夫してきた。たとえば、字幕付きプラネタリウム上映では、名古屋市科学館の学芸員の解説に合わせて字幕を出す、わかりやすい要約、読みやすい行数や字数、色、字を出す位置などを工夫し、職員のアドリブにもリアルタイムで対応する。</p> <p>字幕付きプラネタリウム上映を中心に、「まごのて」のさまざまなチャレンジについて紹介する。</p>	15
L I V E バリバラ 双方向 アナタならどうする？ Part 2 ～職場編～	<p>職場で障害者の同僚の介助が自分ばかりに集中したら…。車いすを使用している人が営業部の自分の部下として配属されたら…。</p> <p>いろいろなケースで視聴者がどういう行動を選ぶか、データ放送・番組HPを通じてアンケートを行い結果を紹介する。</p>	29
手話で生きる	<p>熊本で活躍する画家の乗富秀人さんはろう者だ。手をモチーフに、印象的な作品を描き続けている。乗富さん一家は妻も息子も全員ろう者、家の中には手話での会話があふれている。「絵を描くことと、手話の大切さを伝え続けることが自分にできること」と語る乗富さん。手話とともに生きる乗富さん一家の生活を追う。</p>	49
生きるを伝える 井戸端手話の会 主宰 松森果林	<p>小学4年で右耳を失聴。中学から高校にかけて左耳の聴力も失った松森さん。「耳が聞こえなくなったあなたは障害者」と言われ、その言葉の重さにショックを受け、死ぬことも考えた。</p> <p>そんな絶望の中、何事にも前向きになれたきっかけと、「生きる」ことのテーマを話す。 (字幕・手話付き 選択可能) 手話表現者：後藤美幸</p>	4

番組名	内容	時間(分)
サラリーマンライフ ～ろう者と聴者が共に働く職場づくり～	<p>近年、ろう・難聴者の企業への就職は年々増え、職業分野も多様化している。</p> <p>ろう・難聴者と共に働く職場環境づくりに取り組んでいる会社取材し、ろう・難聴者と聴者がコミュニケーションを図ることができ快適に働くことができる職場環境とは何か、そして、その環境をどのように整えているかを紹介する。今村彩子監督作品。</p>	46
交通事故裁判 ～手話ができなくなったことを言語障害として認めて欲しい～ 完全版	<p>名古屋に住む大矢貴美江さん（ろう者）は、交通事故で手にケガを負い、手話でコミュニケーションを図ることが困難になった。ろう者が手話で話すことが困難になったら言語障害にあたるが、保険会社は言語障害として認めなかった。手話ができなくなったことを言語障害として認めて欲しいと、大矢さんは裁判を起こした。今村彩子監督作品。</p>	27
ハートネットTV シリーズ 変わる障害者支援（1）私のことは私が決める	<p>障害者権利条約の中で注目される理念の1つが自分のことを自分で決める社会の実現である。しかし知的障害者の多くは判断力が不十分であるとして子どものころから親や周囲に決められた人生を歩む人が多い。</p> <p>誰もが自分で自分のことを決められるための支援について考える。</p>	29
ハートネットTV シリーズ 変わる障害者支援（2）あなたの決断を支えたい	<p>障害者権利条約が採択され、各国が条約の理念の実現に向け取り組んできている中、日本も自分自身で決められる社会を目指すための障害者支援を模索している。</p> <p>障害者の自己決定を支援する活動例を見ながら支援のあり方を考える。</p>	29
目撃！日本列島 心をつなぐ“千本ノック”～盲目の夫婦の日々～	<p>目の不自由な人たちの野球・グランドソフトボール。選手たちはボールの転がる音を頼りにプレーする。全盲の脇坂清さん（66歳）は、同じく全盲の妻・美津江さんとともに、週1回のノックの練習を26年間続けてきた。盲目の二人がノックに懸ける思いとは何か。</p>	23

番組名	内容	時間(分)
ハートネットTV エンジンの鍵みつ けた ～発達障害とのはざままで～	全国から不登校の小中学生が集まる全寮制の 学校に、幼いころ発達障害の疑いが強いと診断 された少年が入学してきた。彼は同じ境遇の仲 間に心を閉ざしていた。しかし、あることが きっかけで彼は仲間に心を開いていく。 彼の成長の記録と彼を見守る先生と仲間の2 年半に及ぶ記録。	29
ハートネットTV 私らしい“自立”～ NHK障害福祉賞50年～	NHK障害福祉賞は、50年前に始まった障 害のある人や支援者の体験を集めた記録であ る。この記録は半世紀にわたる日本の福祉の歴 史でもある。その中の1つである、27年前に 障害福祉賞に入選した脳性まひの女性が、自立 とは何かを考え続けた年月を振り返る。	29
ハートネットTV 笑顔のそばに卓球 があった ～ろう者卓球日本一 伊藤 優希17歳～	広島県立広島南特別支援学校に通う3年生、 伊藤優希君は卓球の日本代表に選ばれた。伊藤 君は2015年1月に行われた「全日本・全国 ろうあ者卓球選手権大会」で史上初の男子シン グルス2連覇を達成している。伊藤君が卓球を 始めたのは、小学校5年生の時だ。	29
ハートネットTV 静かでうるさい居 酒屋	東京の大久保にある居酒屋「ふさお」はいつ もお客さんでいっぱいの人気店。店主自慢の串 揚げを片手に盛り上がるお客さんたちだが、よ く見ると普通の店と様子が違う。店で飛び交う のは「手話」だ。ろう者の夫婦が営むこの店で は手話が「公用語」。ここには憩いを求めて やってくるろう者も、そして手話の魅力にひか れて来る聞こえる人もいる。	29
ハートネットTV シリーズ 相模原 障害者施設殺傷事件 言葉はなくとも 重度知的障害のある人たち	相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」 で、19人が殺害され27人が負傷した事件が 起きた。容疑者は取り調べの中で「意思疎通が できない人たちを刺した」と語った。ネット上 でも「知的障害者は怖い」「何を考えているか 分からない」などの声が上がった。知的障害者 の思いを知ろうと模索する人たちの活動を追 う。	29

番組名	内容	時間(分)
ハートネットTV シリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第1回 少年院の現場から	罪を犯した少年たちに立ち直るための教育を行う少年院。罪を犯した少年の中には発達障害や、その疑いがある人もいることが分かった。しかし発達障害は外見では判断しづらく一般の少年と同じ教育が行われてきた。そこで国は発達障害のある少年に対する指導方針を打ち出し配慮ある指導を促した。その成果と課題について考える。	29
ハートネットTV シリーズ 罪を犯した発達障害者の再出発 第2回 出所、そして社会へ	障害への支援や配慮が受けられないため罪を犯してしまう人たちがいる。地域生活定着支援センターは、こうした人たちの再犯を防ぐために活動している。中でも先進的な取り組みをしている長崎県の地域生活定着支援センターの取り組みを紹介する。	29
ETV特集 亜由未が教えてくれたこと	NHK青森のディレクター坂川裕野さんの妹・亜由未さんは脳性マヒと知的障害を持つ重度障害者だ。相模原市で起きた障害者殺傷事件をきっかけに、「障害者の家族は不幸ではない」ことを伝えるため、坂川さんは亜由未さんの暮らしを撮影することにする。そして今まで両親に任せていた亜由未さんの介助を1か月間してみることに。両親の苦労、亜由未さんの双子の妹の思い…。重度障害者とともに暮らす家族の姿を描く。	60
ハートネットTV WEB連動企画 “チエノバ” これだけは知ってほしい！聴覚障害の悩み	聴覚障害者といっても、全く聞こえない人から補聴器で少し聞こえる人、生まれつき聞こえない人、途中で聞こえなくなった人などさまざま。しかし聴力に違いはあっても、日常生活で不便を感じることに共通点が多い。番組では視聴者から寄せられた意見を紹介しながら、聴覚障害者の抱える悩みについて、ろう者のゲストと共に考えていく。	29

番組名	内容	時間(分)
E T V 特集 静かで、にぎやかな世界～手話で生きるこどもたち～	東京都品川区にある私立明晴学園は、聞こえない・聞こえにくい子どもたちが、手話で学ぶ学校。そこでは授業も休み時間の会話も子どもたちの大事な会議も、すべて手話が飛び交い実々にぎやかだ。番組では、ろう者として手話とともにのびのびと生きる子どもたちの姿と、大学で「聴者の社会」に直面する卒業生の姿を追う。	59
ハートネットTV シリーズ 認知症当事者をつくる新時代 第1回 絶望から権利へ	2017年4月に京都で開かれた認知症についての世界最大の国際会議。この会議に大きな影響を与えてきたのが、認知症当事者のクリスティーンだ。彼女は当事者として、公の舞台上で自分の考えを語り、認知症への見方を変えてきたことで有名だ。そして今、日本でも当事者が声を上げ始めている。	29
ハートネットTV シリーズ 認知症当事者をつくる新時代 第2回 パートナーと見つけた希望	丹野智文さんは39歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された。今、認知症への見方を変えようと、各地を飛び回る丹野さんの傍らには、活動を手伝うために常に同行する人がいる。家族でもない、介護者でもない「仲間（パートナー）」。希望を探して歩む丹野さんと仲間たちの記録。	29
ハートネットTV シリーズ “ゲーム障害” LIVE 相談 治療と対策	オンラインゲームなどに熱中し生活に支障をきたす症状を「ゲーム障害」という。WHO（世界保健機関）は新たな病気として国際疾病分類に加える見通しだ。当事者や家族の悩み、疑問、体験談を募集し生放送で相談に応える。治療の現場を紹介しながら、対策や予防について考える。	29
ハートネットTV シリーズ 平成がのこした“宿題” 「災害弱者」	平成の30年間では阪神・淡路大震災、東日本大震災など数多くの災害が起きたが、避難や復興から取り残される高齢者や障害者など「災害弱者」が顕在化した。国は自治体に対して「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を示したが縦割り行政の中では思うように進まない。悲劇を繰り返す社会の課題とその解決の端緒を探る。	29

番組名	内容	時間(分)
ハートネットTV NHKハート展 手話・ままのめ	障害のある人がつづった詩に、著名人が作品を寄せるNHKハート展。知的障害を伴う自閉症のある岩元優真さん（14）にとって、詩は周囲の人に自分の言葉を伝えられる数少ない機会。二人三脚で奮闘する母との日常を独特の表現で描く。聴覚障害のある駿河富子さん（68）は、幼いころ言葉に傷つき、詩を書く中で自らの人生を取り戻してきた。詩に込められたそれぞれの人生を見つめる。	29
ハートネットTV 亜由未が教えてくれたこと 2019	障害者と暮らす家族の本音、共に生きる幸せとは何か。3年前の相模原障害者殺傷事件を機に、重度の障害者の妹・亜由未さんにカメラを向けるNHKディレクターの記録。この夏、2年ぶりに亜由未さんと向き合う兄。妹の症状や環境の変化、介助する親の老いなど、多くの問題を目の当たりにしながら、家族とは何かを模索する。	29
ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！～おはなしのくに編～	ハートネットTVでは、今回「おはなしのくに」2作に手話をつけて放送。渡辺直美さんふんする「きんたろう」と熊の相撲対決は、手話でどう表現されるのか。壇蜜さん出演の「つるのおんがえし」で、鶴の鳴き声や機織りの音はどう手話になるのか。聞こえない人も、聞こえる人もみんなで見てほしい、NHK初の手話エンターテイメント番組。	29
ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ！～ドキュメント72時間編～	「いろんな番組を手話で楽しみたい」という、ろう者・難聴者の声から、NHK初の手話エンターテインメントに「ハートネットTV」が挑戦。今回は、「ドキュメント72時間～海が見える老人ホーム～」に手話をつけて放送。吹石一恵さんのナレーションや、人々の人生が垣間見える一言はどう表現されるのか？シンガーソングライター・松崎ナオさんが歌う72時間テーマ曲「川べりの家」と、手話パフォーマーのコラボレーションも！	29

番組名	内容	時間(分)
ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ! ～昔話法廷編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ!」。今回は、Eテレで話題となったドラマ「昔話法廷」に手話をつけて放送。「さるかに合戦」をモチーフに、カニの親子を殺した猿が法廷で裁かれる。死刑を求めるカニの子ども、涙声で謝罪する猿のセリフを、ろう者たちが手話で表現する。NHK初の手話つきドラマ、果たしてその仕上がりがいかに?手話のできる芸人・河本準一さんをナビゲーターに迎えてお送りする。	29
ハートネットTV 手話で楽しむみんなのテレビ! ～サンドのお風呂いただきます編～	NHKの人気番組に手話がつく「手話で楽しむみんなのテレビ!」。今回は、サンドウィッチマンが各地の家庭風呂をいただきながら人々と触れ合う、湯けむり人情バラエティー「サンドのお風呂いただきます」。会話のテンポが速く、音楽も効果音も盛りだくさん。にぎやかだから面白いバラエティーを、どうやって手話で表現する??新たな魅力を帯びた「サンドのお風呂いただきます」をお届け!	29
文字の獲得は光の獲得でした 作家 柳田邦男が読む いのちの手記	NHKとNHK厚生文化事業団が主催する「NHK障害福祉賞」には、身体障害や精神障害などと向き合う人たちから半世紀にわたり1万3千以上の手記が寄せられてきた。長年、この賞の選考委員をつとめてきた作家 柳田邦男さんは、それを「人間理解の宝庫」という。そこには苦悩や偏見を乗り越え人生を切り開いてきた人々の真実の言葉がある。番組では柳田さんとともに過去の受賞者4人を訪ねる。人生に立ちはだかる壁を「文字で表現すること」を通して越えてきた人々の体験から、私たちは何をくみとることができるのか。	49
ハートネットTV #隣のアライさん 「これだけは知ってほしい!“統合失調症”のこと」	さまざまなマイノリティーのアライ(味方・理解者)を増やそうと始まった番組「#隣のアライさん」。第1回は統合失調症の人たちの「これだけは知ってほしい」に迫る。統合失調症の人たちの悩みや関係の作り方について、クイズを通じて理解を深める。	29

番組名	内容	時間(分)
<p>ハートネットTV #隣のアライさん 「これだけは知ってほしい!“摂食障害”のこと」</p>	<p>今回は、摂食障害への理解を深め、拒食や過食に悩む人たちの味方になることを目指す、隣のアライさん。</p> <p>摂食障害の原因は、体重コントロールのためのダイエットであると思われがちだが、単にその行為が問題だけでなく、その行為の奥にある精神的な問題も大きく関わっている。そのため、摂食障害を乗り越えるためには、周囲のサポートも欠かせない。</p> <p>正しい知識を持って、アライさんを目指そう。</p>	29
<p>ハートネットTV #隣のアライさん 「これだけは知ってほしい!“てんかん”のこと」</p>	<p>てんかんは100人に1人が発症するといわれる身近な疾患だが、発作の一種である「けいれん」のイメージから、強い偏見や過剰な配慮に悩みを抱えている人が多い。疾患の基礎知識や発作時にはどうすればいいのかなど、てんかんへの理解を深め、アライ（味方・理解者）を目指す。当事者の経験談からどのようなアライが求められているのを考える。</p>	29
<p>壁を拓く、社会を開くII 一昭和50年代のろうあ運動ー〈手話ビデオ字幕つき〉</p>	<p>昭和50年代のろうあ運動は「4本柱」運動と呼ばれる権利獲得運動が中心だった。その中の1つ「差別的な民法11条改正運動」について紹介する。内容は、実際に差別にあった聴覚障害者の証言、弁護士の立場から見た改正前の民法11条の問題点、全日本ろうあ連盟の当時の活動などを野澤克哉先生の解説と共に紹介する。</p>	51
<p>長崎原爆特集 あの日 僕らの夢が消えた～被爆学校 生徒たちの64年～</p>	<p>長崎県諫早市にある鎮西学院高校は原爆で131人の生徒が亡くなったという悲しい歴史がある。原爆によって生徒たちが抱いていた夢や希望は一瞬で消え去った。生き残った当時の生徒たちは、その後どんな人生を送ったのか見つめる。</p>	48

番組名	内容	時間(分)
少女たちの日記帳 ヒロシマ 昭和20年4月6日～8月6日	昭和20年8月6日朝8時15分、広島県立第一高等女学校の1年生223人は、爆心地から600メートルの所で建物疎開の作業中に被爆し、全員が亡くなった。亡くなった1年生が遺した日記帳には、女学校入学から8月6日までの12歳の少女たちの日常が綴られており、現在、そのうちの10冊が公表されている。 番組では、再現ドラマと生き残った人々の証言を通して、少女たちの120日間の姿を描く。	43
あの日 昭和20年の記憶 昭和20年8月1日～8月7日	太平洋戦争末期の昭和20年8月1日から8月7日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。	50
あの日 昭和20年の記憶 昭和20年8月8日～8月14日	太平洋戦争末期の昭和20年8月8日から8月14日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。	50
あの日 昭和20年の記憶 昭和20年8月15日～8月21日	太平洋戦争末期の昭和20年8月15日から8月21日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。	50
あの日 昭和20年の記憶 昭和20年8月22日～8月28日	太平洋戦争末期の昭和20年8月22日から8月28日。当時の様子や思い出を著名人に語ってもらうとともに、その日の出来事の新聞記事を紹介する。	50
NNNドキュメント'10 シリーズ 戦争の記憶 いじていめんそーれ 故郷へ進軍した日系米兵	比嘉武二郎さんは、ハワイで生まれ、16歳まで沖縄で育った日系二世。彼は昭和20年、米軍語学兵として沖縄に上陸した。何としても祖国沖縄の人を救いたいと、ガマに身を隠す故郷の人々に沖縄のことばで叫び続けた。「いじていめんそーれ」出てきてください、と…。	26

番組名	内容	時間(分)
NHKスペシャル 東京大空襲 58 3枚の未公開写真	東京都文京区の民家で発見された大量のネガフィルム。それは太平洋戦争末期の東京の空襲被害を撮影した貴重なものだった。軍の許可を得た報道カメラマンによって撮影された写真の数々は、当時は軍の情報統制で世に出ることはなかったのだ。克明に記録された空襲直後の東京の町の様子。写真に写っていた人やその関係者を訪ね、当時のお話を聞く。	49
防災の日スペシャル 首都大震災 わ・す・れ・な・い 3・11の警告	未曾有の被害をもたらした東日本大震災。あの日、東北では何が起きたのか。番組では震災時の貴重な映像をもとに、東日本大震災の被害を詳細に分析し、もし同じ規模の地震が首都圏を襲ったらどうなるのかを具体的に予測。どうやって大地震から身を守るか考える。	96
歴史秘話ヒストリア 新春激突！織田・徳川・武田 三大決戦 ～長篠の合戦 男たちは何を見た！？～	<p>「エピソード1 信玄と戦いたくない！信長の弱気な接待作戦」ゴージャスな織物400枚に帯を300本に虎の皮にヒョウの皮、オーダメイドの服や帽子。戦国のカリスマ織田信長が武田信玄に贈ったプレゼント。信長にとって戦国最強軍団を率いる信玄は絶対敵にしたいくない相手だった。</p> <p>「エピソード2 最強軍団は占いで生まれた？武田信玄若き日の苦悩」信玄は家臣のために祈ったり、ほうびを与えたり、温泉を用意して福利厚生を充実させたり…と家臣が気持ちよく働けるよう気を配り、その心をつかんでいった。</p> <p>「エピソード3 激突！長篠の戦い 戦場に散った忠義の男たち」信長は最強武田を叩くため3000丁の鉄砲を準備、万全の手を打つ。信長の作戦はことごとく的中、勝頼の命も風前の灯火となったその時、信長に立ちはだかかったのが、命がけで主君を守ろうとする武田の男たちだった。【字幕制作：とちぎ視聴覚障害者情報センター】</p>	43

番組名	内容	時間(分)
知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第1回 夜間中学校との出会い	昼間の学校が終わった夕方5時に年齢も生まれた国も違うさまざまな人が通う学校・夜間中学校。生徒は皆、昼間の中学に通えなかった人たち。その夜間中学で42年間、国語の教師として夜間中学一筋に教え続けた見城慶和さんに夜間中学との出会いを伺う。	25
知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第2回 生きる力を支える言葉	42年間、夜間中学校の教壇に立ち続けた見城慶和さん。夜間中学に通う生徒は時代と共に変わる。高度経済成長期は、終戦直後に中学に通えなかった人たちが大人になって夜間中学に入ることが多かった。その生徒たちの生きる力を支える「言葉」について伺う。	25
知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第3回 不登校の君へ	1975年ごろから昼間の学校に通えない不登校の生徒が、夜間中学校に増え始めていった。心によろいを着せて、誰とも口をきかなかった生徒が、夜間中学で、みんなの前で初めて声を出して本を読むことができた。昼間の学校と夜間中学校はどこが違うのか。見城さんに夜間中学の教育力について伺う。	25
知るを楽しむ 人生の歩き方 夜間中学校は僕らのふるさと 第4回 「鈍行列車」で行こう	42年間にわたる夜間中学校の教師生活で、見城慶和さんは2000人を超える卒業生を送り出した。そして、2003年3月、見城さんは定年を迎え教師生活を終えた。しかし夜間中学校を卒業しても、更に「学び」を求める人は多い。見城さんの「学び」に対する思いを伺う。	25
NHKアーカイブス あの人に会いたい 遠藤周作	<p>各界で活躍する人々を迎え、その生の声を聞くインタビュー番組。今は故人となった人物の貴重な映像をお届けする。</p> <p>人と宗教の関係を描いた作品を数多く描いた作家・遠藤周作。遠藤周作は、人間の生きざまを問う作品を発表する一方で、自ら狐狸庵山人と称し、ユーモアあふれる作品も多数残した。</p>	10

番組名	内容	時間(分)
NHKアーカイブス あの人に会いたい 司馬遼太郎	<p>国民的文学といわれる『竜馬がゆく』や『坂の上の雲』の作者・司馬遼太郎。その歴史観は「司馬史観」とも呼ばれ、亡くなった今も、多くの人をひきつけている。</p> <p>従軍中のエピソードや竜馬への共感、そして日本人に求める規範について、司馬遼太郎が語る。</p>	10
NHKアーカイブス あの人に会いたい 乙羽信子	<p>女優・乙羽信子は、半世紀にわたり映画、テレビで活躍してきた。夫の新藤兼人監督とのコンビで、40本以上の作品を残している。生い立ちから「100万ドルのえくぼ」のキャッチフレーズでのデビュー、そして演技派女優への転身のきっかけ、夫との関係まで、裏話を交えて語る。</p>	10
NHKスペシャル 働き盛りのがん	<p>日本対がん協会の常務理事・関原健夫さんは大腸がんから肝臓や肺への転移を繰り返し、6回のがん手術を乗り越えて生き延びてきた。番組では関原さんのほかに、4名のがん患者を迎え、働きざかりの若い年齢でがんになり、闘病していくことの難しさや現実を語ってもらう。</p>	89
プロフェッショナル 仕事の流儀 涙も笑いも、力になる ～院内学級教師・副島賢和～	<p>院内学級とは、病気やけがなどが理由で学校に通えない子どもたちのための病院内施設。副島は、ここで勉強を教えると同時に、一つのことを大切にしている。子どもたちの不安や心配を</p> <p>解きほぐすことだ。「子どもを下から持ちあげる」「そうっと、そばにいる」…。</p> <p>番組は、日々子どもに寄り添う副島（そえじま）先生を追いながら、その極意を伝える。</p>	48

番組名	内容	時間(分)
<p>新日曜美術館 シリーズ 創作の現場 ドキュメント(1) 写真家・石内都 「ひろしま」との対話</p>	<p>鬼写真家・石内都。1979年、女性初の木村伊兵衛賞受賞、2005年にはヴェネツィア・ビエンナーレ日本代表となるなど、日本の写真界の一線を走り続けてきた女性写真家だ。昨年、石内は新たな撮影に挑んだ。テーマは「広島」。広島平和記念資料館に保管されてきた、原爆で亡くなった人の遺品など、「被爆資料」にカメラを向けたのだ。焼けこげたワンピース、引きちぎられた上着……。どの品物にも空前の惨劇の傷跡が残る。石内は、一点一点に語りかけるようにシャッターを切りながら、原爆で断ち切られた人々の「その瞬間」以前に思いをはせ、そこに刻まれた生命の痕跡を鮮やかに蘇らせていく。確かに人生を謳歌し、生きていた遺品のあるじたち。石内の写真の中で、被爆資料たちは、自らの刻印された人生を、愛を、静かに語り始める。</p> <p>これは、一人の写真家の一年半に渡る「広島」との対話の記録である。(NHK番組HPより抜粋)</p>	45
<p>プロフェッショナル 仕事の流儀 闘 う介護、覚悟の現場 介護福祉士 和 田行男</p>	<p>日本全国で200万人を超えるといわれる認知症。その介護の世界に、新しい風を吹き込み続ける和田行男さん。介護の仕方によっては“普通に生きる姿”を続けられると主張。認知症のお年寄りたちが家庭的な環境のもと、少数で共同生活を送る「グループホーム」で、先駆的な取り組みを続けてきた。</p> <p>和田行男さんの施設では、お年寄りたちは、自分でできることは自分でするのがルール。けがや事故のリスクも常にある。それでも和田行男さんは、お年寄り1人1人の認知症の度合いや身体能力などを見極めながら、できる限り“普通の暮らし”を維持できるよう奮闘し続ける。</p>	48

番組名	内容	時間(分)
プロフェッショナル 仕事の流儀 希望のリハビリ、ともに闘い抜く リハビリ医 酒向正春	リハビリの現実とは、決してなまやさしいものではない。脳卒中による後遺症を抱えた患者の中には、せん妄やうつ病など、精神的なダメージを負ってしまうケースが少なからずあり、それがリハビリを難しくする。しかしリハビリ医の酒向（さこう）は、どんなに困難なケースでも、最後の最後まで粘り抜く。リハビリには、患者の人生を取り戻すという大切な役割があると、信じているからだ。（NHK HPより）	48
ハートネットTV 「困った！どうする？ろう・難聴者のウィズコロナ」	「新しい生活様式」により、暮らしが一変した人たちがいる。耳の聞こえない人たちだ。「マスクにより口の動きが読めずコミュニケーションが取れない」「オンラインの音質が悪く聞こえにくい」など混乱が起きているのだ。一方で「配慮してとお願いしにくい…」と、悩みを抱え込んでしまう人も多い。そこで、当事者だけの座談会を開催。同じ立場だからこそ分かち合える悩みを語り合い「どうすれば良いか」をみんなで考える。	29
ハートネットTV ヤングケアラーフォーラム SOSを見逃さないために	家族の介護や世話を担うヤングケアラー。中高生の20人に1人いると推定されています。埼玉県が全国に先駆けて対策に乗り出す中、「自分はヤングケアラーかもしれない」と気づいて声をあげる高校生も！ そこで、「SOSを見逃さないために」と題してフォーラムを開催。元ヤングケアラーや専門家などが一堂に会し、会場参加者に加えリモートでつながった全国の視聴者と共に、本当に必要な支援とは何かについて考えます。	29
目撃！にっぽん 日本一静かで笑顔あふれるカフェ	東京・国立に2020年にオープンしたカフェ。人通りが多い駅前にありにぎわっていても、店に入ってみると驚くほど静か。「いらっしやいませ」の声もない。それは、聴覚に障害があるスタッフたちが手話で接客しているから。 手話や筆談、時にはジェスチャーも交えて“会話”する。その笑顔あふれる接客に、常連さんも増えている。訪れる人が元気になれるカフェ、そのワケ、見てみませんか？	35

番組名	内容	時間(分)
<p>ハートネットTV 私のリハビリ・介護 「台風かあちゃんの“遠距離介護” 柴田理恵」</p>	<p>ふるさとの富山でひとり暮らしをしている母・須美子さんを5年前から遠距離介護してきた俳優の柴田理恵さん。コロナ禍以降、帰省は厳しく制限され、年に1度ほどしか会えない状況に追い込まれた。そんな柴田さん親子を支えてくれたのが地元のつながり。近くに住む親戚やご近所、須美子さんの教員時代の教え子などが、買い物や洗濯、通院や雪かきなどを手伝い、須美子さんの暮らしを支えている。遠隔介護の秘けつをうかがう。</p>	<p>29</p>
<p>ハートネットTV 私のリハビリ・介護 「脳動脈瘤(りゅう)からの生還 DJ KOO」</p>	<p>4年あまり前、テレビ番組の企画で人間ドックを受けたDJ KOOさん(60)。脳内に直径1センチ弱の動脈瘤(りゅう)が見つかり、6時間半に及ぶ手術を受けることになった。改めて思い知らされた健康のありがたさ。そして、妻や娘の愛情の深さ。無事手術に成功し、完全復活を果たした今、KOOさんは、がんの早期発見を促す啓発活動などに積極的に参加している。大病の末につかんだものについてうかがう。</p>	<p>29</p>
<p>首都圏ネットワーク 埼玉発！ 芸術が街を変える 社会とつながる 伝えたい！ 手話演劇の魅力</p>	<p>高校生が手話の演劇やダンスなどを競う「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」。埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園は、第10回大会で準優勝した。大会では、手話言語の特徴を意識した表現が高い評価を受けた。またテーマ選びでは、ろうの高校生たち自身が、日常生活で感じた切実な問題を取り上げ、演劇を通じて人々に訴えている。 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園演劇部の皆さん</p>	<p>6</p>
<p>ナンブノイチ 85分の1のヒトって？ 手話通訳士</p>	<p>〇〇な人は、日本人の何人にひとり？数字をもとに現代をひも解く5分のドキュメント。聴覚・言語障害がある人は約34万人。一方で手話通訳士の資格を持つ人は約4千人。85人に対して1人の手話通訳士。番組では2人の手話通訳士を取り上げ、手話への思いを伺う。</p>	<p>5</p>

番組名	内容	時間(分)
<p>ナンブノイチ 23分の1のヒトって？ 生活拠点が いくつもある人</p>	<p>〇〇な人は、日本人の何人にひとり？数字をもとに現代をひも解く5分のドキュメント。全国15万人を対象にした調査で、複数拠点生活を送る人は23人に1人。グラフィックデザイナーのかたわら、富士吉田で朝ごはん屋を始めた秋山さんもその1人。複数の拠点を持つって、どんな感じ？新しい生活のスタイルを見つめる。</p>	5
<p>超多様性 トークショー！ なれそめ 幸せを見つけた！ 聞こえない彼& 聞こえる彼女</p>	<p>なれそめの数だけいろいろな人生の楽しみ方がある！カップルの「なれそめ」をきっかけにいろいろな人生の楽しみ方についておしゃべりする番組。</p> <p>聞こえない世界で育ち、会社員となり初めて聴者と接して戸惑っていた、ととさん。複雑な家庭環境で育ち、常に自分の幸せを探して生きてきたという、ゆうこさん。彼女が手話通訳者としてととさんと出会ってから、つらい過去さえ最高だと思える、とびきりの幸せを手に入れた！</p>	29
<p>NHK映像ファイル あの人に会いたい 米内山明宏 (日本ろう者劇団初代代表)</p>	<p>昭和27年に東京で生まれた米内山さん。ろう学校に通学当時から手話の演劇に憧れ、28歳の時に東京ろう演劇サークルを立ち上げる。その後単身渡米し、アメリカのろう劇団で俳優デビュー。帰国後は「日本ろう者劇団」の初代代表となり「手話狂言」にも取り組んだ。また、手話の普及や手話通訳の養成にも取り組み、ろう文化の発信、普及に尽力した。</p>	10